始

392
175

コ-3729
お
別
E392-175

眞言祕密の魔力

實修法 通信傳授 秘錄

全四卷合本

靈術道場

大正
10 3. 8
内交

弘法大師御影像

役の行者
神變大菩薩御影像

開講の辭

卍、風は曠野に收つて烟條直しとかや。万籟寂たる深山の巖洞に獨座淨念、靜かに万象の行方を尋ね、徐ろに本有の風光を想へば心はいつしか悠久なる無盡莊嚴の靈域にわけ入りて生死を斷ち涅槃を斬る阿字の一刀は戛々として腰間に自から聲あり、文殊殺佛の利劍は空に倚りて夏尚ほ寒きを覺え、眼を開けば白光の淨界、忽然として現前するに會す。これ吾等が本有の宮殿にあらずや。これ吾等が本俱の大魔力にあらず

や。

卍、思ふに方今物質万能の夢漸く覺めて、靈界に現實的奇蹟を求めんとし、之れに憧憬するもの多きの運に會しぬ。奇蹟の力を迷信なりとして一笑に附するの時代は既に去れり、奇蹟は人間の力なり、神變不可思議の神通力は人力の發現し得る所なり、之を熱望して眞面目に修練するものの日々多きを加へ來る、亦喜ぶべきに非ずや。然れども此の時に當りて不健全なる實修法は何等の靈力を獲得し得ざるのみならず、ま す〳〵靈力は失なはしむ。今や、諸子は、我が眞言祕密の實

修法の出現に感激し、あらゆる他の靈的會團をば後に見て玆に本道場に入門し、今より玄理妙々なる眞言靈術の傳授を受けんとす。諸子の決心や、夫れ大いに祝福すべきかな。

卍、本祕錄の執筆に際しては齋戒沐浴、大斷食の行をなし、神嚴なる光明眞言の三昧に住しつゝ全身の丹誠を罩めて之を謹書し、尙ほ其の上は勿體なくも春日大明神と不動明王との大開眼を施したれば本祕錄は此のまゝ有難き御尊體とも云ひべきなり。斯くの如く本祕錄は絶對的の神聖を保持するものなれば、不淨の手を以て之に觸れ、不淨の心を以て之を讀み、

或ひは伏臥しつゝ讀むなど、本祕錄の神聖を穢すの行爲は斷じて之れあるべからず。即ち宮殿の如き小祠でも設けて其の御厨子の中に本祕錄をば御神體として祭り込み、斷えず燈花香など献じて跪拜し、本道場門生以外の者には斷じて此の表紙すら見せるべからず。

卍 右の如く本祕錄の中には絶大なる神佛の魂を吹きこみ偉大なる靈力の精氣が罩り宿れるを以て、本祕錄の表紙に手を觸れたるだけでも、電氣に打たるゝ如くピリ〳〵と手が痲痺れるほどなれば、内容の神驗なるは、また云ふまでもなし。

よろしく本祕錄に手を觸れんとする前には必ず光明眞言二十一遍づゝを唱へて、而して後ち、之を手にせよ。たとへ小冊子なればとて決して輕侮の念を起すべからず。同じく紙製の印刷物なれども、他の書物と大いに其の實質が異ふぞよ。

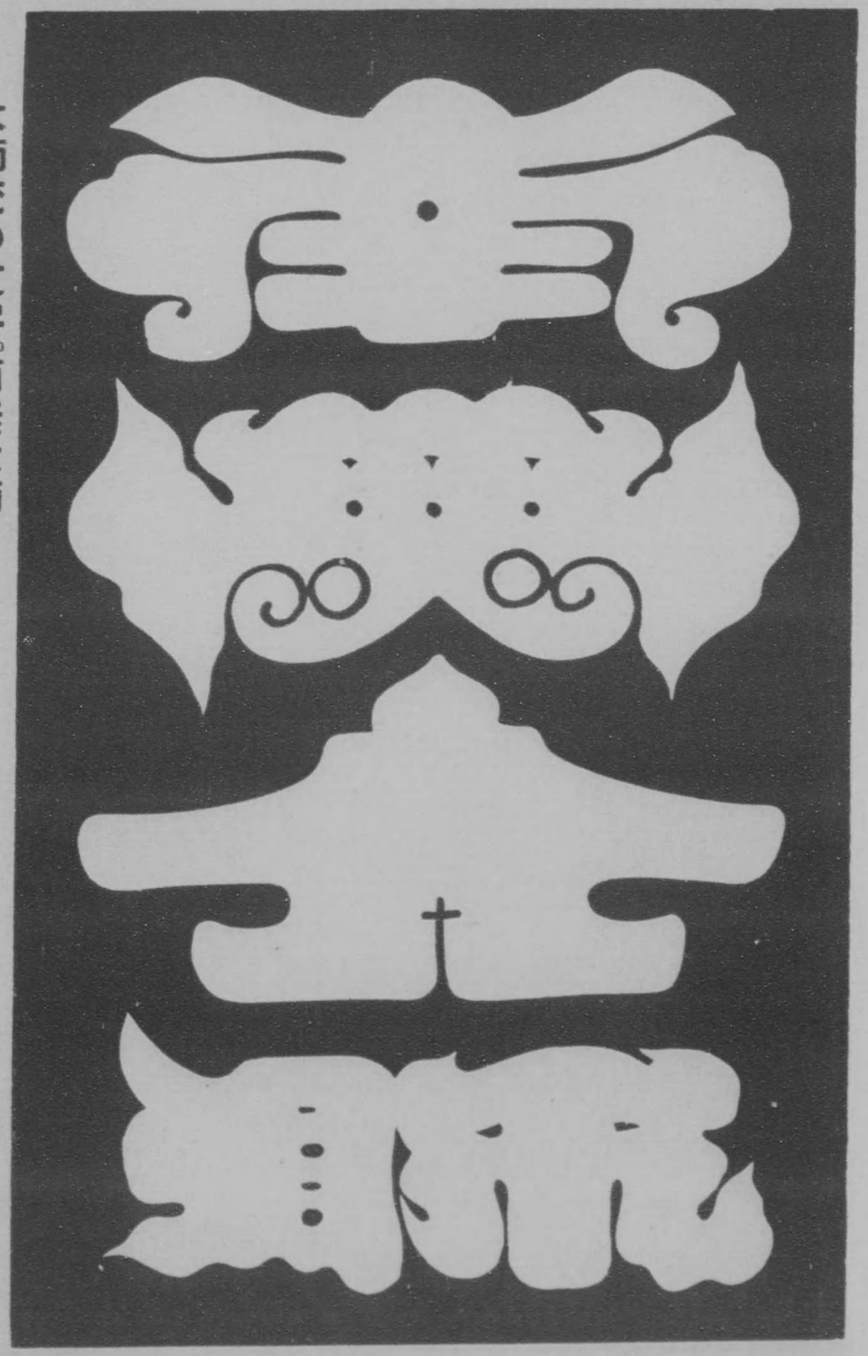
卍 而して、本祕錄を一段ん讀み出したならば一字一句と雖も忽にせず始めから終りまでよく熟讀玩味し、苟しくも拔讀するが如きこと決つして之れあるべからず。拔讀み、拾讀みは啻に本祕錄の神聖を冒瀆するのみならず、内容をも了解し能はざらん。これ本祕錄に於ては故らに章を設けず、書き流

しにして抜讀みを防げる所以なり。されば入門者たるものは、よく熟讀玩味、七度び繰返し讀みて、而して徹底的の實修に取り掛れ。誠意と熱心との充實は、以つて諸子に遠からず大魔力と大神驗とを與へん。夫れ大いに奮發して實修し、以つて一日も早く實驗報告の提出を望む。

靈術道場

第壹卷　初傳の部

——虎の巻——



大師流の文字『南無大師』

有難や『虎の巻』

靈術道場

◉掛巻母恐伎、大元能父母登仰奉利、我靈術道場及神聖奈流總本山登崇奉利天祖大神遠始奉利道能御祖登慕奉流、富士岳高神德開分命能、宇頭能御前仁、身毛心毛打清米天恐美恐美毛白左久、天地能位正之久、四季能時候違波受、萬物蕃殖榮方、人道開進美、天下參利國治麻利行久、廣伎厚伎大

御陰能中仁毛、搔鳴須也玉能小琴能殊更仁、奇之伎御靈遠奉蒙瓦麻久止、我
靈術道場能木原鬼佛我、一向仁願白志請白須、其眞心能緒呂遠中取持天、
今日能吉日仁心盡能幣帛於捧奉利、嚴乃神法執行比仕奉良久遠、神長柄毛
阿波禮止見行之、米具志止聞召天、雜々乃枉難波、科戸乃風仁雲霧乃晴流々事
乃如久、旭乃影仁露霜乃消由流事乃如久、拂比除計給比、諸乃福利波、水分
乃水仁草木乃潤布事乃如久、鳥羽玉乃暗路仁燈火遠得多流事乃如久、惠美助給
比天、凡天凶事波吉事止反之給比、吉事波彌幸久進給比、萬乃事等爲須我隨仁
事麗之久成良之米給比、求流我隨仁、事速計久得左之米給比天、行力毛魔力
毛法力毛神通力毛富士乃高嶺仁月日影、匂比照合布事乃如久、面照足波之
給比、壽命毛心根毛富士乃御山乃鳥帽子石乃、雨降里風荒倍土毛、動久事無
久變流事無伎事乃如久、面變里爲受、彌高仁彌堅石仁、守幸給方止、平手拍上
計天恐美恐美毛白壽。

◉高天原仁神留坐須皇親神漏岐神漏美乃命乎以豆釜所乃御前仁謹而言、歸命
頂禮六根清淨眞言宗本尊南無金剛界大日如來、胎藏界大日如
來、南無大聖不動明王、南無龍猛龍樹菩薩、南無空海弘法大師、
大峯開祖役行者南無神變大菩薩、修驗道中興南無理源大師、陰陽
道乃行者南無歸命頂禮阿部晴明、兩部神道乃祕密相承南無春日大明
神、南無三國列祖一切三寶日本國中大小神祇、天神天常立尊、地神國常立
尊、南無天照皇大神、南無八幡大菩薩、南無稻荷大明神、南無釋
迦如來、阿彌陀如來、南無日天月天、南無孔雀明王、愛染明王、
南無大聖勸喜天、南無勢至菩薩、千手千眼、觀世音菩薩、我今茲仁
青體乃幣帛白體乃幣帛乎奉捧利、種々乃色物乎橫山仁置足志豆祭祀事乎、神
佛聞食牟、如是聞食豆波崇止云崇禍比波不在物乎登祓賜比清賜比豆、限無伎靈
術於得左之米賜事乃由乎八百萬乃神等諸共仁聞食止恐美恐美申須。

◉扨て、先づ最初、眞言祕密の『**事相**』と云ふことより述べ出さんに、眞言宗には、二個の方面あり、其の一面を**教相**と云ひ他の一面を**事相**と云ふ。教相は教理的方面にして事相は乃はち實修的方面なり。興教大師が『教相ノ花ニヨリテ事相ノ果ヲ結ブ』と述べ賜ひしが如く、實に此の教相と事相とは車の兩輪鳥の雙翼の如き關係あるものなり。何れの宗教でも空理空論を尊ぶものに非ずして實際的の事實を主とするものなるが就中、眞言密教は特に實際的方面に重きを置くものなれば眞言祕密の法として尊ばれるもの皆な事相より出づ。故に、本祕錄に於ても主として其の事相を解說する事に努めん。事相は絕對的の祕密にして昔から**口傳相承**卽ち、**面授口傳**にあらずんば斷じて漏らさゞりしを以て容易に其の內容を知る能はず、教相は現今にても數多の研究書が出版され居るが故に容易に研究する事を得。故に諸子は其れ等の書籍によりて教相の方をも充分に學ぶ事を要す。

◉事相とは具には『**事業儀相**』と云ふ。大日經疏に『凡ベテ祕密宗ノ中ニハ皆ナ因緣ノ事相ニ託シテ以テ深意ヲ喩フ、故ニ此ノ如ク傳授ヲ作ス也』とあるを本據となすものにして擇地、造壇、灌頂、修法、印契、眞言、などの如き威儀行法の諸事象をば皆な事相となす。されば事相は上は大日法身如來および諸佛菩薩、諸天夜叉神の妙行より下は一切衆生の所爲に至るまでを包含するものにして、其の事相の行法をなす事によりて本尊と行者とが彼此涉入し感應同交して普ねく宇宙に及ぼし、以て其の熱誠の結果、神變不可思議なる無盡藏の大魔力と大靈力とを發現し得るものとせらる。而して其の事相たるや極めて廣く且つ深く、つひに所謂る『**事相三十六流**』或ひは『**事相七十二流**』と云ふ多數の分派あり。中でも仁和寺、大覺寺、醍醐寺、勸修寺、隨心院の如き寺院は所謂る『**事相本山**』として何れも事相の源泉地たり。斯くの如き多岐なる事相を研究するには實に容易の事にあ

らず。而も近世の眞言僧は皆な此の深遠なる事相を知らず。依て本道場は經軌および口傳の祕密を探り、現今まで未だ明されし事なき祕密境を公開せむとす

因みに『**事相の三師**』即ち源仁僧都、益信僧正、聖寶理源大師は最も事相の太祖なり、何れも龍樹菩薩の正流を直傳せられしものなるが故に本祕錄に於ても主として以上三師の說を採らむとす。

◉扨て上述は眞言宗の事相のみの意義なりしが、之を廣き意義に於て考ふるときは眞言のみならず、修驗道、陰陽道、兩部神道にも事相あり。夫れ、修驗も陰陽も兩部も互ひに名こそ異なれ、共に等しく密教に屬し、眞言と同一流派に含まるべきものなり。故に密敎なる點より見る時は天台宗の中にも密敎あり、日連宗の中にも密敎あり、ばらもん敎の中にも密敎あり。これら總べての密敎的部分の中より事相に關するものゝみを拔き、打つて一丸とせるもの即ち我が道場の事相なり。

◉實修法を述ぶるに先き達ちて種々の注意事項あれども、其れらの事は追々と述ぶる事とし、先づ印の結び方より說明せむ。即はち宗祕論に曰はく『印ハ是レ諸佛ノ印、妙用不思議ニシテ神通功力迅ヤカナリ、天ヲ指セバ星月落チ、地ヲ指セバ江湖盡ク、之ヲ呼ブニモ印ヲ用ヒテ招キ、之ヲ遣ルニモ印ヲ用ヒテ趁ラシム、怨魔百萬億、咸ク順調ナラシム、密印ヒトタビ之ヲ搖ネケバ魔軍自カラ消殞スベシ』と。即ち印契は實に其のまゝ如來の御神體なるが故に一指一印が直ちに宇宙に周遍し、一指わずかに曲げれば天地を鳴動せしめ一指わずかに伸ばせば諸神佛が其の指の中へ乘移り給ふ、其の不可思議甚深の力は實に凡夫の測知し能はざる所とす。印を結ぶときは決して輕忽に爲すべからず。即ち大日經疏の密印品に曰はく、『善無畏三藏ノ曰ク、西方ニハ尤モ印法ヲ祕ス、作ス時ハマタ極メテ恭禮ス、必ズ尊室ノ中及ビ空靜淸潔ノ所ニ在テ嗽浴シ嚴身スベシ、若シ一々ニ浴スルコト能ハザレバ必ズ須ラク手ヲ洗淨シ口ヲ嗽ギ塗香ヲ以

テ手ニ塗リ方ニ作スコトヲ得、又作ストキハ須ラク威儀ヲ正シ跏趺等ニ坐ス、然ラザレバ罪ヲ得テ法ヲシテ速ニ成スコトヲ得セシメズ』と。又、青龍儀軌に説て曰はく『印ヲ結バント欲セバ敬ヒテ十方三世ノ諸佛ニ白セヨ、我等下輩愚鈍ノ凡夫、此ノ印ヲ掌持スト雖モ、蚊蟻ノ須彌山ヲ掌ルガ如シ、恐ラクハ勢力ナケン、只願クバ諸佛我等ヲ加護シテ我ヲシテ無上正覺ヲ成スコトヲ得セシメタマヘ、此ノ印ヲ維持スレバ佛ノ勢力ニ同ジ、此ノ語ヲ發シ已テ誠ヲ至シテ拜禮セヨ云々』と。又、陀羅尼集經にも曰はく、『佛ノ前ニテ印ヲ作サムニハ袈裟ヲ以テ覆ヒ、或ヒハ淨衣ヲ以テ覆フ』と。されば眞言宗の廣澤流にては左の法衣の袖中に於て結印し、小野流にては右の法衣の袖中に於て結印し、安流にては袈裟の下に於て結印するなり。本道場にては何れとも指定せず、たゞ上述の諸經軌に從て輕忽ならざる範圍に於て、各自よき方法にて之をなすべし。

印契は實に『小宇宙』なり、僅かに十指の屈伸に過ぎざれども其の變化は無

限にして如何なる事をも形にて表はす事を得るなり。即ち印契が小宇宙なるは此の十本の指に無量無邊の功德を附するに依るものにて、攝無碍經には『左手ノ五指ヲ胎藏界五智ト名ヅケ、右手ノ五指ヲ金剛界五智ト名ヅケ、十指即チ十度或ヒハ十法界或ヒハ十眞如ト云フ』とあり。今、諸經に從つて十指の意義を擧ぐれば左の如し。

右＝佛＝精神＝金剛界＝陽＝淨

- 大指＝空＝けん＝きや＝禪（ぜん）＝大日＝大聖不動明王如來
- 食指＝風＝うん＝か＝通（しん）＝阿閦＝金剛夜叉明王如來
- 中指＝火＝ら＝ら＝忍（にん）＝寶生＝大威德夜叉明王如來
- 藥指＝水＝び＝ば＝戒（かい）＝彌陀＝軍荼利夜叉明王如來
- 小指＝地＝あ＝あ＝壇（だん）＝釋迦＝降三世夜叉明王如來

左＝衆生＝物質＝胎臓界＝陰＝穢

小指＝地＝あ＝あ＝慧（ね）＝釋迦如來＝降三世夜叉明王

薬指＝水＝び＝ば＝方（はう）＝彌陀如來＝軍荼利夜叉明王

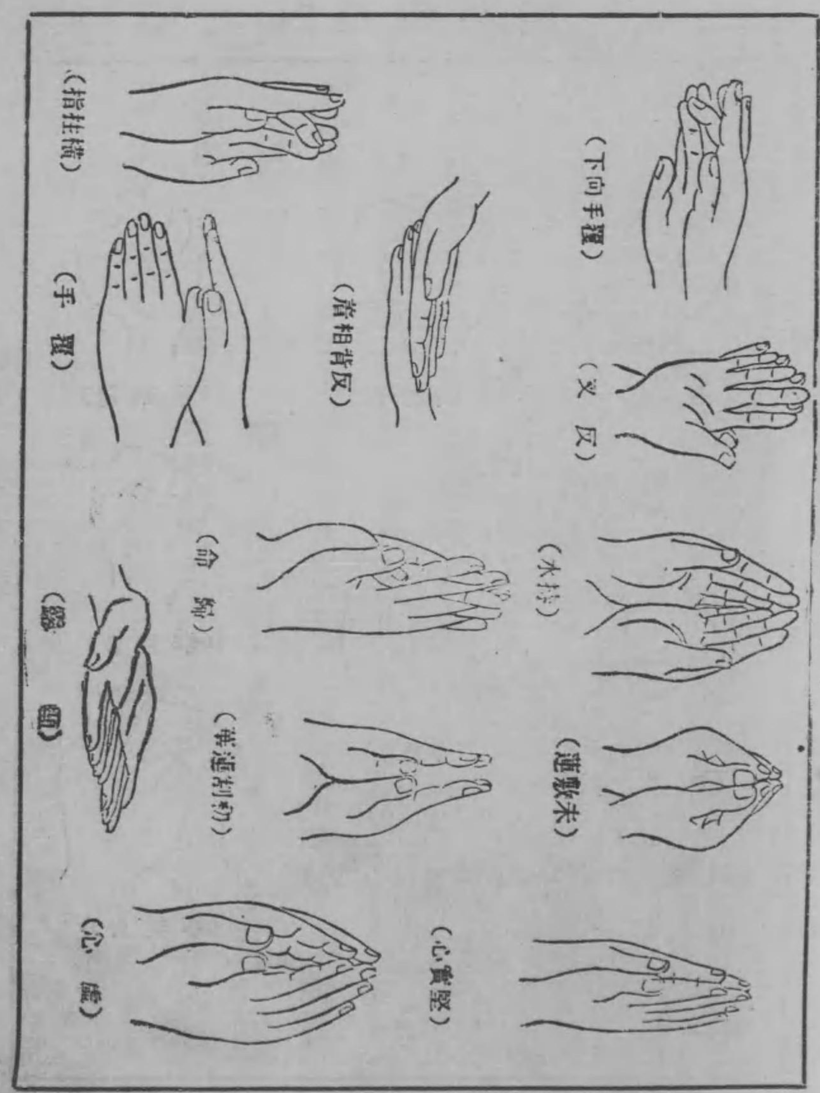
中指＝火＝ら＝ら＝願（ぐわん）＝寶生如來＝大威德夜叉明王

食指＝風＝うん＝か＝力（りき）＝阿閦如來＝金剛夜叉明王

大指＝空＝けん＝きゃ＝智（ち）＝大日如來＝大聖不動明王

故に十本の指は實に小なりと雖も此の十本の指に依つて無量無邊の意義を表はし而して以て之を大宇宙と觀ずるなり。卽ち十本の指の屈伸によつて大は地震雷鳴などの天變地異より小は人事の禮節送迎の境界をも結び表はして自身が其の境界中の人と化し去るなり。卽ち大海の印を結べば渺々たる海中の人となり火焔の印を結べば焔々たる猛火の中に包まるると觀ずるなり。斯くの如く十本の指は僅かに五寸に滿たざるほどの小なるものなれど之を直ちに大宇宙と觀じ

圖の掌合二十



四種拳の圖

無量無邊の神變力を表はすに到るものなり。

されば印契を結ぶは單なる形式のみには非ずして其の一々に深甚なる理論あり

卽ち其の理論を說くために數ある惣べての印契を分類して二種となす、一を『理印』と云ひ、一を『形印』と云ふ。理印とは例之ば大日如來の『無所不至印』の如し、卽ち其の中指以下の六本を組み合せたるは六大體大を表はし、大指と食指四本を組み合せたるは四曼相大を表はし、前の三個の穴は三密用大を表はす、而して此の體大、相大、用大の三大に宇宙の森羅萬象を具足するをもつて此の印には『一切に遍じて至らざる所なき』理が包含されたり、故に此の印を『無所不至印』と云ふ。斯くの如く、『理』に依りて作られたる印を理印と云ふ。形印とは例之へば『三股印』が三股杵の形を爲せるを以て其の名あるが如く『形』によりて作られたる印を云ふなり。

◎夫れ斯くの如く、總べての數ある印契は皆な此の理形の二分類の何れかに屬せざるはなし。扨て斯くの如き無數の印契も元を質せば極めて簡單なる基本的印契より變化して生ずるものなり、即ち『印母』と稱する十六個の根本的の印をば母として生れ出でたるなり。然らば十六個の印母とは何ぞや、『十二合掌』即ち『胎藏合掌』と『四種拳』即ち『金剛拳』とが是れなり。先づ十二合掌即ち胎藏合掌とは、

一、寧尾拏合掌(堅實心合掌)。これ掌を堅く合せ指頭を少しく離す。

二、三補吒合掌(虛心合掌)。掌を少しく空にして兩手を合せ指頭を堅く合す。

三、屈滿囉合掌(未敷蓮花合掌)。前よりは一層、掌を膨らせ花の蕾の如き形をなす。

四、僕拏合掌(開初割蓮花合掌)。蓮花の少しく開ける形、即ち頭、中、無名の三指頭を少しく離す。

五、多那惹合掌(顯露合掌)。兩手を互に雙べて物を受くるときの如き形をなす。

六、阿陀羅合掌(持水合掌)。前の合掌を少しく屈して水を掬ふが如き形をなす。

七、鉢羅拏摩合掌(金剛合掌。歸命合掌)。十指頭を交叉せしめ、掌を少しく空にして合掌す。

八、微鉢哩哆合掌(反叉合掌)。前の印を逆に掌の背にて合せたるもの。

九、毗鉢哩曳薩哆合掌(反背互相着合掌)。法界定印の手を裏返しにせるもの。

十、啼哩曳合掌(横柱指合掌)。手の中指のみを合せ、他の八指を離して仰むけしむ。

十一、阿駄囉合掌(覆手向下合掌)。二手を九峯印の如くす。

十二、同上(覆手合掌)。二手を覆(ウツブケ)にす。

これを十二合掌と云ふ。詳しくは圖に依つて實地に修して之を知れ。但しこれは最も祕密中の祕密の事相にして筆墨を以て示すべきものに非ざるにも拘らず茲に大膽にも其の極祕を漏らせし次第なれば、決して之を他人に敎ゆべからず堅く〳〵禁ず。次に四種拳、即ち金剛拳とは、

一、胎臟拳(又は蓮華拳)片手のみ拳を握りて母指を外に堅つ。

二、『金剛拳。』大指を拳の中へ入れて片手のみを握る。但し輕軌には之を二種に分つ、即ち一は此の金剛拳にて頭指を立てて智發生の形をなし之を**忿怒拳**と云ふ、他の一は左を胎藏拳、にし右を金剛拳にして重れたるものにして之を**如來拳**と云ふ。左の大指を右の掌の中に入れたるものを加へて四種拳ともに**六種拳**とも云ふ。

三、**外縛拳。** 十指を皆な外に出して兩手を握る。

四、**內縛拳。** 十指を內にして兩手を握る。

これを四種拳と云ふ。詳しくは又、圖を見よ。是れも前の十二合掌と共に深祕中の深祕なるものなるが故に他人に敎ふる事を嚴禁す。

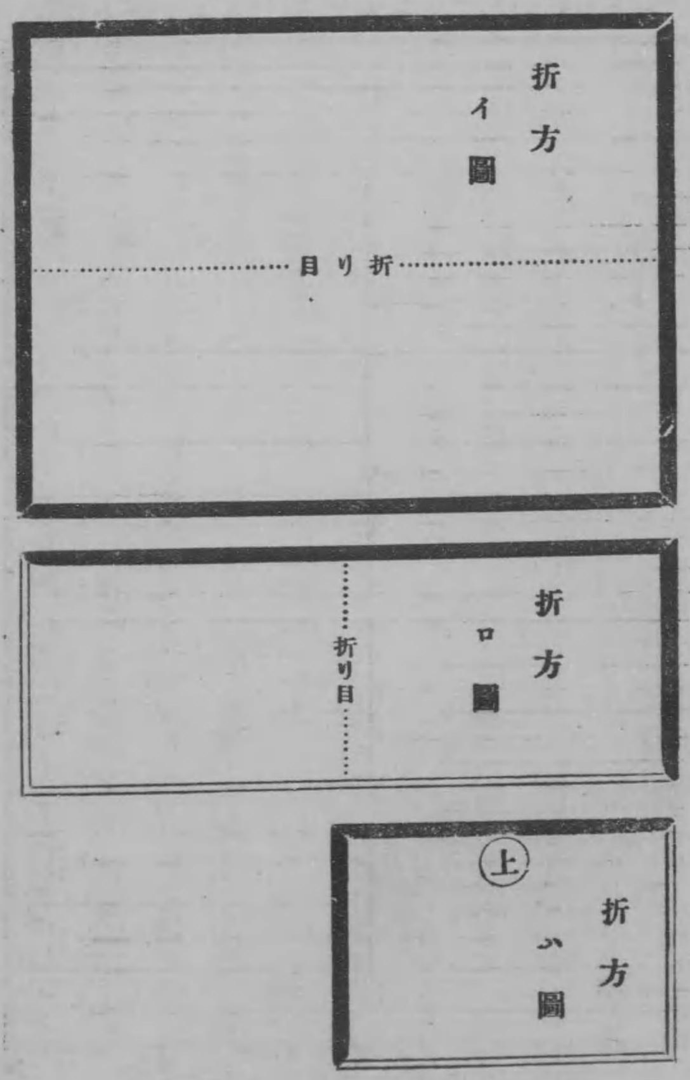
◉以上をもつて印母の事は漏らし終りぬ。即ち以上の如き十六種の印が總ての印の根本にして、此の僅かに十六の印が母となり父となりて、此の根本印契より幾百幾萬と云ふ多數の印が無限に流出するものにして、本祕錄に述ぶる所の一切の印契も皆この印母より分流せるものと知るべし。兎に角、印契は實に無限に神聖なるものにして十本の指そのまゝが神佛の身體なり。されば即ち火指

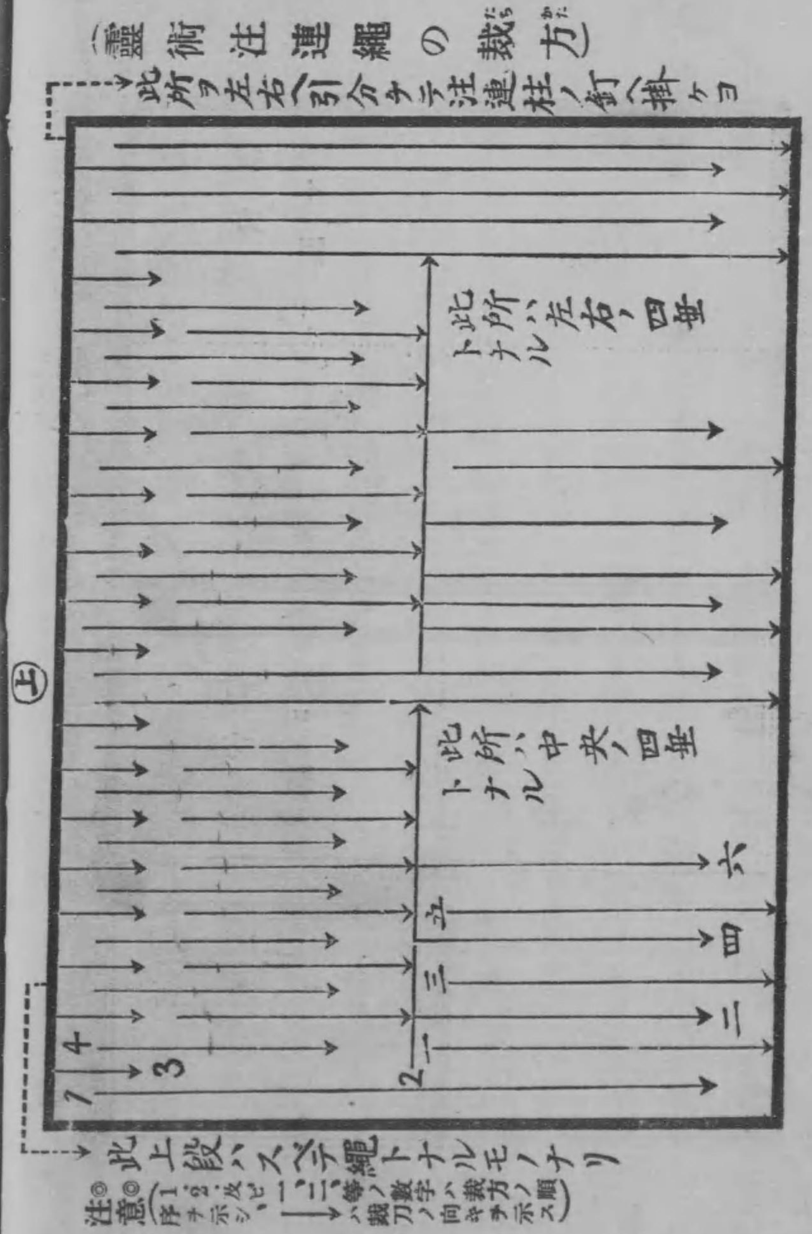
(中指)一本を振ひしために大火炎を發して世界を丸燒にせしめ得る事ともなれば、又、水指(藥指)を一本立てたるが爲めに大雨を降らし得る事ともなり、又風指(頭指)を一本屈したるが爲めに大暴風をピタリと鎭靜せしめ得る事ともなるなり。夫れ印契には斯くの如き深甚なる神力が潛めりと雖ども其れが實修に際しては必ず之に共なふ『**眞言**』を誦せざるべからず。眞言とは諸神佛の本誓を說きたる梵語にして『**咒文**』『**密咒**』又は『**陀羅尼**』或ひは『**神咒**』とも稱し、之を誦するときは無盡藏の大靈力を得るものとなす。

◉扨て是より、いよ〳〵『**魔力實修法**』の『**基礎的實修法**』たる『**魔力涵養法**』即ち『**念力集注法**』とも稱すべき事より說述せんに、先づ『**護摩の焚き方**』より始めん。此の『護摩に依る**魔力涵養法**』を修せんには先づ正面の一段、高き所に『**靈術大明神**』と稱する本尊を祭るべし。但し此の『靈

術大明神』とは如何なる御神體なりや、又その御神體は如何にして謹書し謹剃するやに就ては最も祕密の部類に属するが故に茲には之を省略し特別口傳書に於て傳授す。兎に角、此の本尊を祭り、尚ほ其の前に『**靈術注連縄**』を張りて清めよ。注連縄は『端出縄』とも稱す。天照皇大神が天之岩戸を出て給ひけるとき、引き延へたるを以て始めとし、縄を引き且つ四垂を付けて『結界』となせるものなり。陰陽道の古書にも『ウタヌ藁ヲモツテ左リ縄ニナフモノナリ、端ヲ出スコト七五三』とあるが如く荒藁の左縄を以て本儀なりとす。扨て茲に云ふ『靈術注連縄』は紙を以て作る獨特の法にして今その裁方を示さんに、『靈術注連縄の折方』の圖に從つて先づ楮製の極めて清淨なる美濃紙、又は半紙六枚を折方イ圖の如く横に折り、次に其れをば又ロ圖の如く竪に折り、更にハ圖の如く折り、其れを『裁方』の圖に從つて小刀をもつて裁ち、其の裁端より左右へ引き分けて注連柱へ掛くるなり。尚ほ小さき注連すなはち小注連を

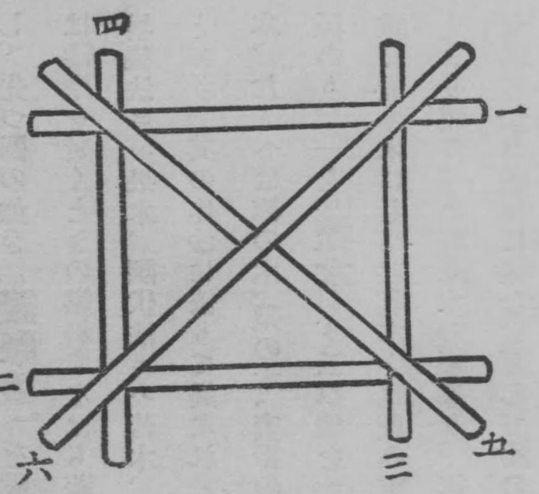
（靈術注連縄の折方）





作るには右の紙の折り方を小さくなし、小刀の裁ち数をも減ずれば可なり。

◉斯くの如くにして祭壇を嚴そかに飾り終れば次は愈々、護摩に取り掛かるべし。先づ圖の如き『**護摩壇**』を設け、爐の中へ護摩木を積む。『**護摩木**』とは護摩を焚くときの燃料すなはち薪を云ふ。瑜伽護摩軌には『息災法ニハ甘木、增益法ニハ果木、調伏法ニハ苦木、敬愛法ニハ花木、鉤召法ニハ刺木ヲ用ヒヨ』とあり。其の作法に依りて異なれども今は果木すなはち主として果實の成る木、たとへば柿の木、梨の木、蜜柑の如き木を用ふべし。而して此の護摩木に二種あり、一を『**壇木**』と云ひ他を『**乳木**』と云ふ、壇木とは段々に前以て積み重ね置く木にして、乳木とは積み重ね置かずして壇木が燃えつつある時に、あとより燒るべき護摩木の事なり。扨て先づ爐の中へ護摩木を積むには先づ六本を圖の如き順序に組む、而して此の上へ又同じ様な順序で六本を積みて二階と



一、珠數ヲ採ミ、

一、次ニ圖ノ如キ大日如來無所不至ノ印ヲ結べ、

（註）此の印は又『塔印』『大宰覩婆印』『大慧刀印』とも云ひ密教の大極秘印なり秘すべし秘すべし。

し更らに其の上へ六本積みて三階とするが如く順次くり返して十八階となし、合計壹百〇八本の護摩木を積み重ぬるなり。但し惣べて護摩木は能く乾燥せしめたるものならざる可らざるや勿論なり。護摩木の長さは約八寸とす。

◉扨て行者は禮盤へ座し、身を正し心を清めて、

欠

ッ左ノ『不動經』ヲ誦ス、

『佛說聖不動經、爾時大會有一明王、是大明王有大威力、大悲德故現青黑形、大定德故坐金剛石、大智慧故現大火炎、執大智劍害貪瞋癡、持三昧索縛難伏者、無相法身虛定同體無其住處、但住衆生心想之中、衆生意想各々不同、隨衆生意而作利益、所求圓滿、爾時大會聞說是經皆大歡喜信受奉行、

南無三十六童子

矜迦羅童子、制吒迦童子、不動慧童子、光網勝童子、
無垢光童子、計子儞童子、智慧幢童子、質多羅童子、
召請光童子、不思議童子、囉多羅童子、波羅波羅童子、
伊醯羅童子、師子光童子、師子慧童子、阿婆羅底童子、
持堅婆童子、利車毗童子、法挾護童子、因吒羅童子、

欠

大光明童子、小光明童子、佛守護童子、法守護童子、
僧守護童子、金剛護童子、虛空護童子、虛空藏童子、
寶藏護童子、吉祥妙童子、戒光慧童子、妙空藏童子、
普香王童子、善儞師童子、波利迦童子、烏婆計童子、
聖無動眷屬、三十六童子、各領千萬童、本誓悲願故、
千萬億惡鬼、嬈亂行人時、誦此童子名、皆悉退散去、
若有苦厄難、咒咀病患者、當呼童子號、須臾得吉祥、
恭敬禮拜者、不離於左右、如影隨形護、獲得長壽益、

南無歸命頂禮大日大聖不動明王四大八大諸忿怒尊、

南無八大金剛童子、

慧光童子、慧喜童子、阿耨達多童子、指德童子、
烏俱婆誐童子、清淨童子、矜羯羅童子、制吒迦童子、

南無大日大聖不動明王、四大八大諸忿怒尊、

稽首聖無動、摩訶威怒王、極大慈悲心、愍念衆生者、
本體盧遮那、久遠成正覺、法身遍法界、智慧同虛空、
無相而現相、相遍世界海、無聲而有聲、聲聞塵刹土、
爲護持佛法、爲利樂群生、無邊相好海、變現愼怒相、
慈眼視衆生、平等如一子、方便垂一髮、表示第一義、
金剛智能斷、難斷請煩惱、執持猛利劍、一斷無餘習、
金剛定能縛、難縛諸結業、執特金羂索、一縛無能動、
究竟能取盡、煩惱毒龍子、示現迦樓炎、焚燒業障海、
能護菩提心、令行者堅住、安住磐石座、不退菩提行、
假使滿三千、大力諸夜叉、明王降伏盡、令入解脫道、
一持祕密咒、生々而加護、隨逐不相離、必送華藏界、

念々持明王、世々不忘失、現前三摩地、覺了如來慧、
以此三業禮、明王功德善、平等施群生、同證不動定、
唯願遍法海、金剛祕密呪、同住明王體、加持我三密、
稽首明王力、令我悉地滿、稽首明王力、令法久住世、
自界及他界、無盡世界海、界中諸含識、同證無上覺、
見我身者發菩提心、聞我名者斷惑修善、
聽我說者得大智慧、知我心者則身成佛、
無始已來無量罪、今世所犯極重罪、日々夜々所作罪、
念々歩々所起罪、眞言威力皆消滅、命終決定生極樂、
荷負引道師父母、拔濟生死大苦海、爲我有恩先亡者、
有緣知識男女等、大作方便皆引道、共生安養上妙刹、
乃至四恩諸衆生、皆悉利益共成佛、

南無大日大聖不動明王、四大八大諸忿怒尊。』

(註)不動明王の『**十四根本印**』とは左の如し

(第一)**根本獨股印**(内轉して二頭指を竪合せ、二大指を以て二中指の甲を押す)

(第二)**劍印**(中指と頭指を立て、大指を以て、餘の二指を押す)

(第三)**寶山印**(内縛印すなはち前に示せる四種拳の中の内縛拳なり)

(第四)**頭印**(二手金剛拳にして右を仰むけ左を覆むけて横に相合す)

(第五)**眼印**(内縛して二頭指を竪合す)

(第六)**口印**(右小指を内側に左小指を外側にして二小指を交叉し右無名指を左小指の端に、左無名指を右小指の端に掛け二母指を以て二無名指の爪を押さへ二中押を立て合せ二頭指を以て其の背を押す)、

(第七)**心印**(前に掲げたる大日無所不至の印なり)、

(第八)**甲印**(虛心合掌して二頭指を中指の上節に附し、二無名指を寶玉形になし、二小指

と二大指とを散じて立てるなり)、

(第九)獅子奮迅印(之れは前の甲印と同じけれども、ただ異なる點は此の印に於ては右の頭指を直立せしむるなり)、

(第十)火焔印(左手を開き散じ、右手は物を指す時の如く頭指を立て母指を以て餘の三指の甲を押し、其の頭指の頭を以て左手の掌の中央を押す)、

(第十一)火焔輪止印(兩手を金剛拳にして各大指を頭指と中指との間に出し、而して兩拳背なば相合せしむ)、

(第十二)商佉印(兩手を劔印とし、二中指の頭を合せ、右の頭指は其の中指の上節に附し、左の頭指を直立せしむ)、

(第十三)羂索印(兩手を金剛拳にし、右は頭指を立て、左は頭指と大指の端を合せ、而して左の掌を以て右の頭指を握る)、

(第十四)三股金剛印(右の大指を以て頭指の甲を押し、中指以下の三指を散じ立てるなり)。

右、十四個の印契は之を連續的に結び續くることを要す、第一より第十四まで結び終ちば直ちに又、第一より始めて斯く、繰り返す事を要す。但し、やめる時は中途で、やめる可らず、必ず第十四まで結び終るを要す。右、十四種を合して、一個の印契たるものにして、これ最も深祕なるものなれば、決して輕忽に、なすべからず、他人に漏らす事も之を嚴禁す。

一、次ニ燈明ノ火ヲ護摩木ニ移シテ燃(モヤ)シ、

一、直チニ左ノ祝詞(ノリト)ヲ始ム、

『掛(カ)ケ卷(マク)モ畏(カシ)コキ吾(ワ)ガ靈術大明神(オホミカミ)ノ御前(ミマヘ)ニ天常立尊(アメノトコタチノミコト)、國常立尊(クニトコタチノミコト)、伊弉諾尊(イザナギノミコト)、伊弉冊尊(イザナミノミコト)、天照皇大神(アマテラスオホミカミ)、稲荷大明神、春日大明神、八百萬(ヤホヨロズ)ノ神(カミ)タチ大御靈(オホミタマ)ヲ招(キ)イ齊(ハ)ヒ奉リ、大日如來、阿彌陀如來、千手千眼觀世音菩薩、虛空藏菩薩、勢至菩薩ナラビニ諸佛諸菩薩ヲ招(キ)イ齊(ハ)ヒ奉リテ畏(カシ)コミ畏(カシ)コミ請(コ)ヒ申(マチ)サク(柏手二回)。(行者ノ姓名)ココニ今、我(ワレ)三業ヲ清メ靈妙無限ノ護摩ヲ焚(タ)キ、燃(モ)ユル紅蓮(クレン)ノ焔(ホノホ)ノゴトク猛(タケ)リ迅(ハヤ)ムル心モテ身體(カラダ)トイフ身體中(ザウ)ノ念力ヲ

一點ニ打チ集メテ思念シ思念シ思念シ、強ク荒ク思念ス、大御神ヨ仰ギ願ハクバ御山ノ高嶺ト彌高キ、強キ魔力ヲ受サシメ給ヒテ、嚴速ク靈驗ヲ得サシメ給ヘト、天ノ彌開手打擧テ恐コミ恐コミ白ス。』(柏手三回)

一、次ニ、燃エッツアル護摩ノ焰ノ尖端ニ圖ノ如キ梵字輪アリト觀念シテ、其ノ梵字ヲ、ヂット見詰メ、荒々シク珠數ヲ揉ミッツ左ノ諸眞言ヲバ各、七回ヅッ聲高々ニ續誦セヨ、

(大日如來)、オンバサラバドバン。

(阿閦如來)、オンアキシュビヤウン。

第貳卷　中傳の部

蛇の卷

弘法大師の御眞筆

恐ろしや『蛇の卷』

靈術道場

◉夫れ眞言靈術の修行たるや恰かも、劍術の修行に於けるが如し。勿論、少しく異なる事情もあれど、眞言の靈術は先づ昔の劍術の修行に類似し、之を少しく怠つて居れば必ず腕が落ちるものなり。斷えず行つて居れば假令へ鈍き法力でも漸次に其の强さを增すなれど、之に反して如何に鋭どき魔力を有する者で

も長らく之を使わずに怠つて居れば、名刀も使はざれば錆るが如く自然と其の法力に錆が出來て腕が鈍り衰ろふるに到るものなり。かるが故に諸子、本道場の門弟たるものは斷えず出來得る限り此の靈術の自修に怠りなく孜々として之が勤修に努めざるべからず。

◉諸子は曾て獨逸の文豪ゲーテが力作『ファウスト』を繙きし事ありや。人、ひとたび之を讀みて誰かファウストの徹底的修行に驚ろかざるものあらんや。凡そ靈術の修養は徹底的なるを以て最も緊要なりとす。現今、所在に續出する靈界の數ある修行法の如き姑息なる方法、氣まぐれ的の方法に於ては、焉んぞ夫れ雄大なる法力を得べき。徒らに時間と勢力とを空しく浪費して、つひには何等の法力も靈能も得る所なく、あたら大なる勇猛心も之がために挫がれて失望に終るもの比々として多きは夙に吾人が不滿にたへざる所なりき。蓋し、徹底

的の修法には眞言密敎を以て最も上乘なるものと信じ得べきか。よろしく諸子は一先づ他の姑息なる方法をば一切これを放棄し去り、一意專心、この眞言靈術の方法に沒入して、之を徹底的に實修せられなば、遠からずして諸子は必ず、自分ながら驚くべき一大靈力を獲得し得べきや堅く信じて疑はざるなり。

◉魔力涵養の基礎的自修法として第一卷『虎の卷』に於ては既に二種の實修法を示したるが、此所には更らに第三の自修法を傳授せんとす。即ち第三の基礎的實修法とは『オンバザラタラマキリクソワカ術』とも稱すべき祕術なり。

『オンバザラタラマキリクソワカ術』とは一名これを千手千眼觀世音菩薩『印契早結びの術』とも云ひ得べきものにして

『千手觀音修行儀軌』の中に說かれたる最古の祕傳なり。卽ち一分間に何百回と云ふ素晴らしき早さで續けざまに印を結びて其所に念力の凝結を現はすといふ一種の『**念力凝結法**』なり。其の方法は先づ瞑目し、圖の如き千手觀音の尊像をば心の中に鮮やかに觀念しつつ『**千手千眼根本陀羅尼**』を續誦して『**九峯の印**』と『**三十三天の印**』とを交互に出來るだけ早く繰り返すべし。『千手陀羅尼』とは左の如し。

千手千眼觀世音菩薩

『ナボカランタンナータラヤーヤー、ナボアリヤバロキテージンバラヤー、ボーヂサットバヤ、マカサットバヤ、マカカロニカヤ、オンサラバラバヱイ、

シュタンナタンシャ、ナボシキリターイモーアリヤ、バロキテーシンバラリャウタバ、ナボナラキンヂ、ケイリマカハタシャメイ、サラバアタヅユボーアセイヤウ、サラバサッタナマバガマバドヅ、タンニャタ、オンアバロケイ、ロカテイ、カラテー、イケイリ、マカボウジサットバサラバ、マラマラマケイマ、ケイリダヨー、クロクロカラボー、ドロドロバジャヤテー、マカバジヤヤテー、ダラダラチリニ、ジンバラヤ、シャラシャラ、ママバマラ、ボクテーレー、イケイイケイ、シツダシツダ、アラサンハラシャリ、バシャ、バサン、ハラシャヤ、コロコロマラ、コロコロケイリ、サラサラ、シリシリ、ソロソロ、ボーヂヤボーヂヤ、ボーダヤボーダヤ、ミテイリヤ、ナラキンヂ、ダリシュニナー、ハヤマナ、ソワカ、シッタヤ、ソワカ、マカシッタヤソワカ、シッタユゲー、ジンバラヤソワカ、ナラキンヂソワカ、ナラナラソワカ、シツラソワボカーヤソワカ、ソワマカシッタヤソワカ、シャキャラアシッタ

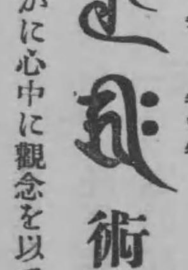
ヤソワカ、ハンドマカシッタヤソワカ、ナラキンチバガラヤソワカ、マバリシャウカラヤソワカ、ナボカラタンナ、タラヤーヤー、ナボアリヤ、バロキテー、ジンバラヤソワカ、シッテトマンダラ、バッタヤソワカ。』

而して『九峯の印』とは兩手を先づ第一卷にて述べたる十二合掌の中の初割蓮華合掌にして二頭二無名の指頭を交叉し而して二大二小の四指をば開き立てるなり。又『三十三天の印』とは先づ左手の四指をもつて拳を把り次に右手をもつて左手の大母指を握りてまた拳を把る如くになし、左手の大母指をして右手の虎口の中にあらしめて虎口より其の指頭を出し、而して右手の頭指をば離し立てるなり。

◉千手千眼觀世音の尊像の觀法を凝らせ千手陀羅尼を口早に唱へながら右の二個の印をば恰かも一個の印の如くに續けて結び、交互に繰り返し繰り返し續け

ざまに全速力で結ぶべし。而して是れが修練を積むに從て其の結印の度が漸次に速力を增し、恰かも全速力で廻轉せる車軸に於ては其の放射狀の軸が見えざるが如く、此の結印に於ても速度を增して遂ひに其の狀を見る能はざるに到るものなり。此の境に達すれば千手千眼觀世音は、つひに結印せる行者の手の中に乘り移り給ひて、行者の手よりは無限の靈力が迸り出づるに到るものなり。

◉以上は千手千眼の『早結び』なるが、是れと同じく**十一面觀世音菩薩**の**印契『早結び術』**もあり。これを**『オンロケイジムバラキリク術』**と稱す。



『オンロケイジムバラキリク術』とは瞑目して圖の如き十一面觀世音菩薩の尊像をば鮮やかに心中に觀念を以て畫き、其の尊像に强き觀

十一面觀世音菩薩

法を凝らせつつ『**十一面根本陀羅尼**』を誦しつつ『**十一面根本の印**』と『**十一面心樂三昧の印**』とを交互に全速力で結ぶこと千手千眼の時と同じくす。

『十一面根本陀羅尼』は左の如し。

『ナーモアラタンナ、タラヤーヤー、ナモアリヤ、キナナ、シャ
キャラベーロシャナ、ビユカアラジャヤ、タタギャタヤ、アラカテイ、サンミャクサンボダヤ、ナモサルバ、タタギャテービヤ、アラカテービヤ、サンミャクサンボデービヤ、ナモアリヤ、バロキテー、シゥバラヤ、ボーチサッタバヤ、マカサッタバヤ、マカキャロニキヤ、タニヤタ、オン、ダラ〳〵、

チリ〳〵、トロ〳〵、イチバチ、シャレーシャレー、ハンラシャレーハンラシャレー、コリメー、コリマバレー、イリミリ、シリシチ、ジャラマハナヤハラマシュダ、サタバ、マカキャロニキャ、ソワカ』。

而して『十一面根本の印』とは先づ十二合掌の中の金剛合掌をして其の指頭を深く交叉す。次に『十一面心樂三昧の印』とは先づ蓮華合掌をなし而して兩頭指の指頭のみを合して他は悉く開き離すべし。

◉以上を以て魔力涵養法の基礎的實修法は傳授し終りぬ。即ち『護摩血液沸騰法』、『祈り詰めの祕術』、『ヲンバザラタラマキリクソワカ術』、及び『オンロケイジムバラキリク術』の四種を以て法力涵養の基礎的實修法となす。されば諸子は右四種のうち何れかの方法に依りて、先づ强烈なる法力をば充分に涵養せざるべからず。勿論、もし夫れ行者にして其の熱心あらば右の各方法を同時に之を併修すれば尙ほ可なり。

◉さて上述の四種は其の勤修法が極めて簡單にして容易なる實修法なれば何人と雖も容易に之を勤修するを得べきものにして是等の方法を『**理行門の勤修法**』と稱す、今、同じく魔力涵養の基礎的自修法なれども前の四種に反して其の勤修法の最も容易ならざる難行苦行的の基礎的修行法あり、之を稱して『**苦行門の勤修法**』と名づく。凡そ醫藥にも甘き藥と苦き藥との二種ありて、甘き藥を望む者あれば又『甘き藥は藥らしからず、苦き藥ならでは』とて苦きを慾する者もあるが如く、苦き修行法に依つて徹定的の自修をなさむ事を願ふ人のために特に苦行門を說くなり。苦行門の勤修法をば又、『**荒行實修法**』と云ふ。抑々、靈術の修行は劍術の修行に似たり、徹底的に修行して迅速に之が法力を得んと思はゞ何ぞ荒行に如くものあらんや。然るに靈術の修行者にして往々この荒行を嫌ふものあり。非常に身體が虛弱なるか、或ひは其他の

止むを得ざる理由により、如何ともする術なき者は暫く論せず、たゞ之を行なはんと欲すれば行なひ得ざるに非ざる者が此の荒行を毛嫌ひして排斥するが如き無意氣地漢では、到底、靈能の通徹の如きは望んで得べからざる所に屬す。よろし！勇猛精進、獅子奮迅の元氣を以て、好んで『**捨身の荒行**』をするほどの大なる意氣なかるべからず。役ノ行者も『行を求むること難苦を第一とす、身の苦に依て心亂れず』と說き給へり。何ぞ夫れ意義深き御垂示にあらずや。

◉『荒行は外道の修行法なり』などと稱し、自分に好都合な理屈のみを揑ね廻して以て荒行を毛嫌ひするが如きは、不心得も甚だしきものと云はざるべからず。生れつきの聖者ならばいざ知らず、吾人凡夫たる者に於ては何ぞ夫れ荒行に越すものあらんや。彼の役行者、弘法大師、木食上人、文覺上人の如き諸大德ですら捨身の荒行を續け賜ひしにあらずや。深山は一面に玄冬の雲に閉され、

仰いで嶺を望めば白雪皚々として銀の針を植えたらんが如く、雪の峯に氷の崖日光に反射して眺むべからず。俯して麓を見れば榛々たる荊棘縱横に枝を交へ、埒を編み欄を遮りて茅茨頭を沒し、朽葉脚を埋めて寸歩も移すべからず。加ふるに雲霧脚下に起り漠漠として晝なほ晦らく、陣風頭上に暴れて浙瀝として氷塊を擲つ。登り得たる頂上は唯だ雪の峯なり。眼を放つて八表を展望すれば視界に入るものは唯だ白雲と白雪とのみ、飈々として雪より雪に吹き渡る寒風の凛冽なる、肉を破り骨に砭りするばかりにて耳は裂け眼は抉られんとす、されど行者は泰然として氷雪の席に趺坐し、靜かに修禪の眦を閉づるなり、殊に肌をつんざく此の料峭たる嚴冬に、葛の衣たゞ一重のみ身を掩ひ、雪氷を以て錦褪に代へ葛衣を以て綾繡に代へ、亙寒凍餒は骨肉の底に徹するをも堪え忍ぶこそ、噫何たる殊勝ぞや。

◉山容巍然として聳え立ち、老樹蓊鬱として斧斤の入らざること玆に千有餘年、前壁は鬼斧を以て削れるが如く、聳え立つこと百餘仞、後壁は神鑿を以て穿つが如く雲表に兀立すること宛として石筍の如し。此の嶮岨を踏み破り此の危峰をば跋渉し、口に穀漿を斷食し、身に水行をとり、護摩を焚く行者あり。嚴寒の烈風は吹き荒み、谷のつゝらも堅く閉ぢ、松吹く風も膚にしむ寒中に、褌のみの裸體となり、三丈百餘尺の瀧の水、糸を亂して落ち來る、其の瀧壺の中へ飛びこんで、身に任せてぞ打たれける、一日二日打たるゝほどに身は紅色となり、髮や鬚には垂氷さがりて鈴を懸けたる如くにカラ〳〵と鳴りにける、斯くの如くに身を苦しめつつ印を結び陀羅尼を唱へ、幽閑寂默、日を累ね月を送りて、曉苦巖の嶮岨を過ぐれば雲經行の跡を埋め、夜蘿洞の幽なるに睡れば風讀經の窓を訪らふ、煙霞を嘗めて飢を忘れ、鳥獸に馴れて友とせば如何に殊勝なることよ。本道場に於ても何れ機を見て『荒行實修會』なるものを開催して

之を奬勵に資する考なるも、兎に角、諸子は出來得るならば成るべく此の苦行門の方法に從つて自修せられん事を切に希望するものなり。勿論、『理行門の勤修法』も『苦行門の勤修法』も其の魔力涵養に於ける効果に優劣あるものに非されば、其の何れに從ふも各自の隨意なれども、若し其の元氣あらば苦行門の方法に從ひて徹定的に靈術を穫得すべきなり。

◉さて、いよ〳〵苦行門の基礎的勤修法を行なはんには其れに附隨して必ず『**斷食の行**』即はち『**斷食法**』を修せざるべからず。故に初心者は此の苦行門の勤修をするに先きだちて先づ『**斷食修練法**』のみを練習するを特策とす。修練さへ積むに到りなば七十日や百日の斷食は容易なれども最初より長期間の斷食は少しく困難なり、故に『斷食修練法』に依つて準備的の練習を行なふなり。即ち『斷食修練法』とは先づ最初四十八時間ぐらいの極く短期の斷食より漸

次に長期の練習をして行く方法なり。四十八時間ぐらゐの斷食なれば何時誰れがしても少しの差支もなく極めて容易に實修し得らるゝものなるが故に初心者は四十八時間斷食より出發し、左の『斷食修練法』に從ひて順次長期に及ぼさは何の苦もなく上達し、容易に長期斷食をなし得るに到るものなり。

◉『斷食修練法』——

(一)、先ヅ四十八時間斷食。
(二)、右ヨリ一週間ノ後ニ第二回目ノ四十八時間斷食。
(三)、更ニ一週間後ニ第三回目ノ四十八時間斷食。
(四)、ソレヨリ一週間後ニ七十二時間斷食。
(五)、右一週間後ニ第二回ノ七十二時間斷食。
(六)、右一週間後ニ第三回ノ七十二時間斷食。

(七)、右一週間後ニ五日間斷食。

(八)、右一週間後ニ六日間斷食。

(九)、右一週間後ニ七日間斷食。

右の順序に從て漸次に進み七日間斷食に迄達すれば先づ苦行門を勤修し得る資格の備はりたるものと云ふべきなり。卽ち七日間斷食迄上達せば後は三十日や四五十日ぐらゐの長期斷食が容易に出來得るを以てなり。然れども此の斷食修練法は勿論のこと總て斷食中に於ては必ず左記の注意事項を守らざるべからず

(一)、斷食中は必ず一日に五六合の水を飲用すること。但し、水は「ガブ飲ミ」にせず、よく舌の上で味つて少しづつ飲むこと。

(二)、斷食中は出來るだけ數多く深呼吸をなすべし。

(三)、斷食中は成るべく二日目に一回づつ灌腸するを可とす。其の方法はイルリガートルと稱する灌腸器(代價一圓餘)を求め、其中へ四五合の微溫湯を入れ、高所につるし、管を通して肛門より腸內へ注ぎ、五分乃至十分の後に便所へ行つて排泄するなり。

(四)、斷食終了後の食物として最初は何か果物の汁のみで過ごし、次に豆乳か水飴か重湯ぐらいを吸ひて、次に粥と云ふ樣に少量づつ極めて徐々に食量を增して行くこと。殊に長期となるに從て此の食事の注意を必要とす。

(五)、斷食中は出來得る限り『**孔雀經一字五反の祕法**』を繰返すべし。「孔雀經一字五反の祕法」は**修驗道、兩部神道、及び一實神道**の大祕密なるを以て殘念ながら正行者には之を傳授すること能はず、たゞ最高行者にのみ特に此の祕密を授けん。

◉尙ほ一言注意すべきは確固不拔の意志なり。卽ち諸子が若し斷食を始めて其れが長期に渡るに從つて、諸子の家人等は唯だ理由もなく心配し、或ひは餓死するのではなきかと思ひ或ひは之が爲めに病氣になりはせぬかと心配して、諸子の斷食を止めさせんとするやも計り難し。玆に於てか諸子たるものは大なる猛心を奮ひ起し、斷じて其の決心を挫かるゝが如き事あるべからず。苟くも靈術の修行をなさんと欲する者が、家人の甘言に迷はされて其れが修行を中途で

止めるが如き事では到底靈術の堂奥に達すること能はざるべし。それ愼しまざるべけんや。十日や三十日位の斷食で決つして餓死するものにあらず、又これが爲めに病氣などの起るものにあらず、之がために反つて諸種の疾病の治療する事は醫學諸大家の證明する所にして例之ば英國カーリントン氏の證明に依れば斷食に依りて全快せし疾病の數は數十種以上あるが、今その主なるものの

みを列擧すれば左の如し。

病名	斷食日數	病名	斷食日數
▲麻痺病	(三十日間)	▲糖尿病	(二十日間)
▲胃肝病	(二十六日間)	▲秘結下痢交互	(十日間)
▲肝臟充血	(十日間)	▲神經痛	(二十一日間)
▲頭痛惡感	(五日間)	▲神經衰弱	(三十日間)
▲不眠症	(十日間)	▲肺病	(二十七日間)

▲リユウマチ	(四十五日間)	▲肥滿症	(三十日間)
▲消化不良	(十七日間)	▲胃病	(二十三日間)
▲喘息	(四十日間)	▲マラリヤ病	(二十八日間)

又、斷食は如何なる病弱者でも老衰者でも何等の害なく容易に勤修し得らるゝものなり。『斷食をして見たいが斯なに衰弱して居ては』と云ひて恐るゝ人あらば大なる間違なり。斷食は衰弱せる人ほど容易にして且つ必要なり。のみならず斷食すれば如何に病衰の極にある人にも病氣に對する抵抗力を生じ來るものなり。老體でも又同じ、卽ち八十一歳で五十日の斷食をなし、八十四歳で百日の斷食をなせるもの多人あり。

而も皆な斷食後は體重が增加し、血氣盛りの青年の如く元氣になれり。老體なりとて病衰なりとて豈に恐るゝに足らんや。

◉さて上述の『斷食修練法』に依つて一週間の斷食に上達すれば、そこで始めて苦行門の本修行に取りかゝるべし。苦行門の勤修法に三法あり、其の一を『**八千枚護摩の法**』と稱し、其の二を『**タラクバンウンカンキリク術**』と云ひ、其の三を『**水底の邪法**』と云ふ。先づ八千枚護摩の法より傳授せんに。そも〳〵八千枚護摩の法たるや是れ釋迦が娑婆世界に八千遍往來し給へることを表せるものにして、『立印軌』に、『復タ比ナキ力ヲ說ク聖者不動心ヨク一切ノ事業ヲ成辨ス菜食ニテ念誦ヲナセ食ヲ斷ツコト一晝夜、方ニ大供養ヲ設ケテ護摩事業ヲ成シ應ニ苦練木ヲ以テ兩頭ニ蘇ニ搵シテ燒クコト八千枚ヲ限リトナス已ニ初行ノ滿ヲ成ズ心ニ願ヒ求ムル所ノ者ハ皆悉ク成就スルコトヲ得言ヲ發スレバ咸ナ意ニ隨ヒ攝メ召ス處ノモノ卽チ至ル法驗ヲ成セント欲セバ能ク樹ノ枝ヲ摧折シ能ク飛鳥ヲ墮落シ河ノ水ヲ能ク渴レシメ陂ノ池ヲ枯レ涸カシ又ヨク水ヲシテ逆ニ流レシメ能ク山ヲ移シ及ビ動カシ諸々ノ外道ヲ制止シ咒術

ノ力行ハレシメス云々』とあるを本據とするものにして密敎に於ける最も極祕の勤修法と云ふべく、魔力涵養の基礎的自修法として實に最適の祕法たり。

◉其の法は勿論『**深山參籠**』と稱して適當なる深山をば選びて『**參籠**』をする事が必要なり。そも〳〵山嶽は西歐の詩哲にも『山は實に渾圓球上の一大寺院なり、岩の戸あり、雲の柱あり、涓々の流れと輕々の小磊との私語は以て聖歌に比すべく玲瓏たる白雲は以て聖墻に較ひつべし、而も燦たる星光に鏤刻された蒼晏は是れ院内の圓天窓に非ずや』、と謳はれたるが如く、實に山嶽は其のまゝ一堂の寺院たるべく聖殿たるべく靈術の修行には無二の自然的大道場たり。『頓覺速證集』にも、『聚洛ハ妙行ヲ修シ難ク山林ハ淨業ヲ起シ易シ』とあるは誠に是れ穿てる金言にあらずや。

◉即ち先づ成るべく大なる瀧でもある適當なる深山を選びて其所に小さき小屋ても建て、以て之を勤修の道場に當つべし、名づけて之を『**法驗秘密道場**』と云ふ、蓋し無盡藏の大魔力と大法驗とを得んための秘密修練道場なるべければなり。而して其の道場の中には祭壇を設け、壇上には中央に『**大聖不動明王**』を右側に『**天照皇大神**』を、左側に『**春日大明神**』を、以上三尊を併せ祭祠すべし。此の三尊の御尊像は本道場本部に申込まば入門者に限り一定の規定に依て之を分據せらる。とにかく斯くして此の道場には誰人も近づかしめずに五七三十五日の間、此の道場内に於て最秘の荒行を續け、最後の日に大護摩を焚き八千本の護摩木を燃やして祈り詰めるのが此の『八千枚護摩』の法なりとす。扨て、最初の五日間は所謂る『**菜食の仙行**』或ひは『**木食の仙行**』と稱する一種の斷食法をとる。即ち大根か菠薐草の如き野菜類の青葉か或ひは山中に生繁る樹木の若葉をば取り來りて之を食物となし、以て生のまゝで之を食用

するなり。勿論その他に水を飲むことを忘るべからず。次に第六日目より第廿九日目までに到る廿四日間は所謂る『**本斷食**』と稱して水の他には何等の食物をも取らず。而して最後の日には高野山で云ふ所の『**斷食斷飲**』即ち他の食物は勿論のこと一滴の水さへ絶對に之を飲まざるものとす。斯くの如く、三十五日間の八千枚護摩修法中は斷食をなすと共に、又、朝晝晩の三回づつ毎日『**水垢離の行**』即ち『**身滌の修法**』或は『**瀧入りの行**』或は『**六根清淨の水行**』と稱して瀧水に打たれるか井戸水を浴びるかの所謂る『水行』をなさざるべからず。

◉烈風ふき荒む極寒に、松の嵐に吹かれつつ幾百尺の斷崖より水煙をば飛ばしてぞ逆巻き落ちる瀧水を、頭の上より打たれながら、音すさまじく『**法螺貝**』をば吹き鳴らし、聲はげませて左の『**九條錫杖經**』を六回唱ふべし。

『手執錫杖、當願衆生、設大施會、示如實道、供養三寶、示如實道、供養三寶、
以清淨心、供養三寶、發清淨心、供養三寶、
願清淨心、供養三寶。
當願衆生、作天人師、虛空滿願、度苦衆生、法界圍繞、供養三寶、
値遇諸佛、速證菩提、當願衆生、眞諦修習、大慈大悲、一切衆生、
俗諦修習、大慈大悲、一切衆生、一乘修習、大慈大悲、一切衆生、
恭敬供養、佛寶法寶、僧寶一體三寶。
當願衆生、檀波羅密、大慈大悲、一切衆生、尸羅波羅密、大慈大悲、
一切衆生、羼提波羅密、大慈大悲、一切衆生、毗梨耶波羅密、大慈大悲、
一切衆生、禪那波羅密、大慈大悲、一切衆生、般若波羅密、大慈大悲、
一切衆生。
當願衆生、十方一切、無量衆生、聞錫杖聲、懈怠者精進、破戒者持戒、不

信令信、慳貪者布施、瞋恚者慈悲、愚痴者智慧、憍慢者恭敬、放逸者攝心、
具修萬行、速證菩提。
當願衆生、十方一切、邪魔外道、魍魎鬼神、毒獸毒龍、毒虫之類、聞錫杖
聲、摧伏毒害、發菩提心、具修万行、速證菩提。
當願衆生、十方一切、地獄餓鬼、畜生八難之處、受苦衆生、聞錫杖聲、速
得解脫、惑癡二障、百八煩惱、發菩提心、具修万行、速證菩提。
過去諸佛、執持錫杖、已成佛、
現在諸佛、執持錫杖、現成佛、
未來諸佛、執持錫杖、當成佛、
故我稽首、執持錫杖、供養三寶、故我稽首、執持錫杖、供養三寶。
南無恭敬供養、三尊界會、
恭敬供養、顯密聖敎、哀愍攝受、護持弟子。』

而して右六回くり返し唱ふるなれど、一回目毎に法螺三聲づつ吹き鳴らすなり。但し、第一回目を始むる前には法螺六聲吹き第六回目を終りてからは法螺十二聲を共に勇ましく吹き鳴らすべし。これを以て一回の水行を終りとなす。

◉但し右の誦經中には必ず手に『**六度の魔印**』と稱する恐ろしき六個の印契を結び續け、心には『**荒亂大明神の邪觀**』と稱する恐ろしき觀法を凝らせる事を忘るべからず。但し此の『六度の魔印』の結印法と『荒亂大明神の邪觀』の觀法とは共に之を『**座主相承の大秘法**』と稱して『**醍醐山三寶院の座主**』の他は昔から絶對に他人には傳授せず、唯だ醍醐寺の座主にのみ傳授相承せられ來りし最も祕密なる太古よりの恐ろしき祕法なれば今は茲に之を示すことを避け、たゞ特別行者の受くべき『特別口傳書』に於てのみ、此の極祕を漏らさんとす。特別行者たるもの何ぞ夫れ幸福なる哉。

◉而して尚ほ上述の水行に於て最後の法螺も終り將に水行を終らんとする前に當りて『**九字の神術**』を切るべし。これは俗に『九字を切る』と稱する所のものなれど、俗間の九字は眞の九字に非ざるが故に今は左に法驗あらたかなる眞の『九字神術』の大祕密を傳授せん、夫れ諸子よ謹みて之を受けよ。——即ち九字の術は又『**縱横の神術**』とも或ひは『**六甲祕呪**』とも稱し、根本の呪語が『臨』、『兵』、『鬪』、『者』、『皆』、『陳』、『烈』、『在』、『前』なる九個の文字より成るものにして、口に上記九字の呪文を唱へ心に九尊佛の尊像を觀じ手に九個の印を結ぶなり。即ち左の如し、

呪文	印圖	尊佛名	尊像	印名	結印法

臨兵

馬頭觀音

獨古印

左右ノ手ヲ内ヘ組ミテ頭指ヲ立テ合ス

大金剛輪菩薩

大金剛輪印

二手ヲ内ニ組ミ頭指ヲ立テ合シ中指ニテカラム

者闘

大笑明王

外獅子印

左右互ニ中指ノ交叉ヲ頭指ニテカラミ、大指、無名指、小指ヲ立テ合

不動明王

内獅子印

左右互ニ組ミテ中指ヲ無名指ノ交叉ニカラミツケ、大指、頭指、小指ヲ立テ合ス

皆陳

愛染明王

外縛印

二手ヲ外ヘ組ミ合ス

三寶荒神

內縛印

十指ヲ內ヘ組ミ入レル

烈在

夜叉大明神

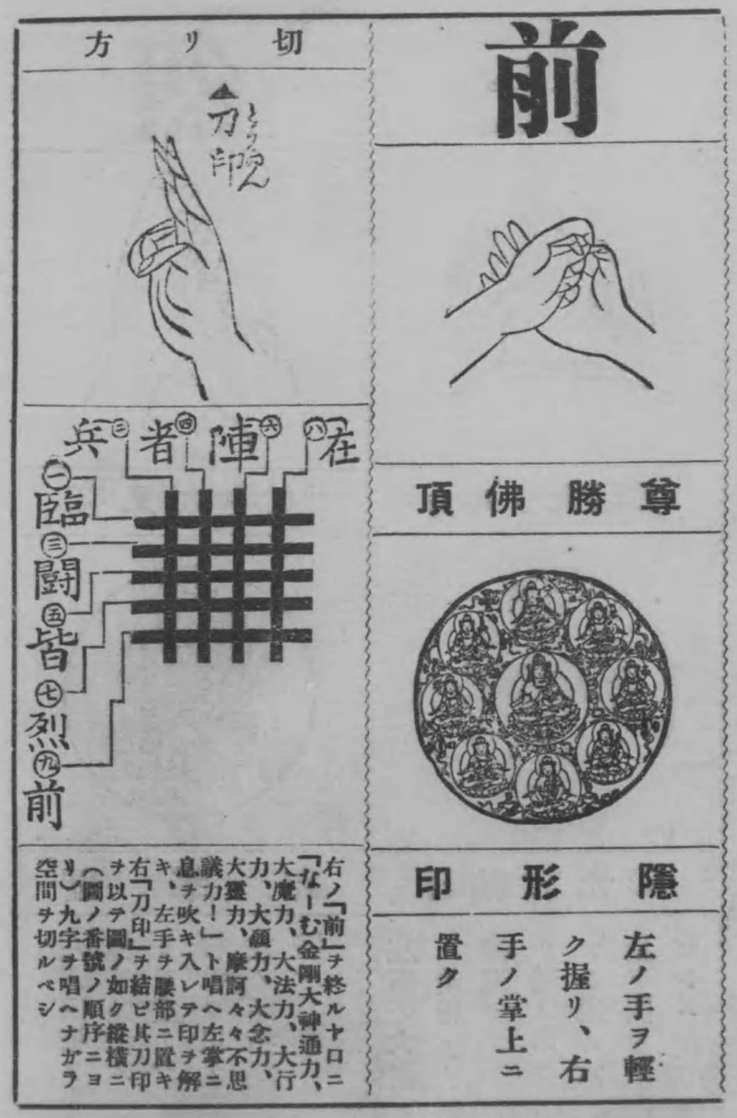
智拳印

左ノ四指ヲ握リ頭指ノミヲ立テ、右手ヲ以テ左ノ頭指ヲ握ル

カルラ大明神

日輪放光印

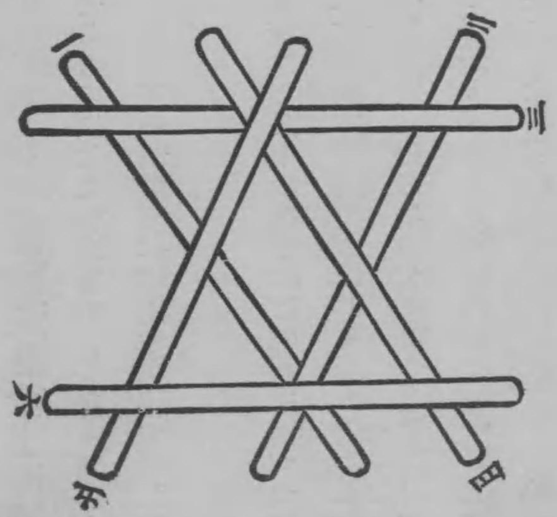
左右ノ大指ト頭指トノ指端ヲツケテ輪ノ形ヲナシ他ノ六指ヲ開キ散ゼシム



右の如く九字は、前記九個の印を殆んど一個の如くに、一つ〳〵切り離さず連續して之を行なふべし。其の手先の莊嚴にして肅然たる、蓋し現前として手中に九尊佛の乘り移りたまひけるらん。——以上を以て九字の祕法は傳授し終りぬ。但しこれは『**修驗深祕行法切紙傳授**』と稱する最古の寫本より、拔萃せるものにして法驗あらたかなる眞の九字祕法なり。現今、世に流布せるものと何ぞ玉石混同すべけんや。祕すべし祕すべし。

◉斯くて八千枚護摩には毎日三回づつの水行を取り、尙ほ朝晝晩の三回づつの『**不動護摩法**』を修して『**天照皇大神の黑術**』と稱する祕法を凝らすべし。但し此の『天照皇大神の黑術』は眞言律宗の祖師『興正菩薩』が天照大神より授かり玉ひし不思議殊勝の祕術にして、容易に傳授すべきものにあらず。依て茲にて之を省略し、『最高口傳書』に於て傳授せん。敢て之を知らんと欲するの

を傳授せん。



◉行者まづ禮盤の上に着座して靜かに瞑目し、先づ『軍荼利の小咒』（ヲンアミリツテイ、ウンバツタ）を唱へつつ『灑淨水の印』即ち圖の如き『三股の印』を結び。次に『嗽口水の咒』（ヲンバサラノウ）を唱へつつ『獨鈷の印』（內縛して二中指を立て合す）を結び。次に『灑淨水』（香水すなはち水の中へ抹香の溶かせたもの）を『散杖』（二尺ほどの棒）の頭端へつけて供物の上へ灑ぎ。次に其れを同じく、護摩木の上へ灑ぐこと三回。次に、護摩木に火を移せ。次に圖の如く『法界定印』を結んで下の如き觀念を凝らせ、即ち＝『自己の胸中に蓮華と月輪あり（之を心月輪と云ふ）其の月輪の中に梵字の「鑁」と云ふ字あり之を『鑁字の觀』と云ふ（即ち圖の如し）而して其の鑁字觀が變じて圖の如き『卒覩婆』即ち『五輪塔』となる、而して其の卒覩婆が變形して『大日如來の姿』となる、身相白色にして五智の寶冠を頂き結跏趺坐して大智拳印に住し背後に圓光あり萬德莊嚴

し如來の頂上より白色の光明を放ちて普ねく全宇宙を照らし給ふ』――と思ふなり。

次に前述「九字」の第七番目の印、即ち『智拳印』を結び『光明眞言』（ヨンアボキヤベイロシヤノウマカボダラマニ、ハンドマジンバラ、ハラバリタヤウン）を二十一遍唱へつつ自己の四處（額、唇、胸、腹）を加持（印で淨めること）せよ。次に定印を結びつつ下の觀法を凝らす、即ち――心月輪の中に梵字の『覽』と云ふ字あり（圖の如し）それが變形して火焔となり其の火焔が自己となり、自己の姿そのまま火焔の塊なりと思ふ（之を『火焔塊の三昧』と云ふ）――而して『火天の大印』（右手を立て四指を散じ立て大指を掌中にし、左手は大指と中指とを捻じて三角の形をなして胸に置く）を結び『火天の小咒』（アギノーエイソワカ）を百遍唱へつつ自己の四所を加持し。次に皿の中の芥子を四方八方に散き。次に何か草木の花一輪を採り火天の小呪を唱へつゝ之を爐中に投じ、定印を結んで次の觀念を凝らす、即ち――此の一輪の花が燃えて其の灰が爐中にて荷葉坐となり、坐の上に梵字の『覽』あり、變じて賢瓶となり、賢瓶が變じて圖の如き火天の

身となる――――と。次に火天の大印を結び『**不動明王の大眞言**』即ち『火界呪』を唱へて。次に『**四句の竭**』（即ち、「唯願火天、降臨此座、哀愍納受、護摩妙具」なり）を唱へよ。次に側の護摩木を續けざまに百八本くべる、但し一本毎に『**不動明王慈救咒**』（ノウマクサーマンダ、バーサラダー、センダーマーカラ、シャーダンツワタヤ、ウンタラターカンマン）一回づゝ唱へて火中に投せよ。次に、又、百八本の護摩木を連續的に火中に投ず、但し一本ごとに十二種の咒文を唱へる、十二種の咒文とは『**十二天の眞言**』の事にして即ち左の如し、

（一）**梵　天**（ナウマクサンマンダボダナン、ボラカマニー、ソワカ）。
（二）**地　天**（ナン、ヒリチミエイ、ソワカ）
（三）**月　天**（ナン、センダラヤ、ソワカ）。
（四）**日　天**（ナン、アヂチヤ、ソワカ）。
（五）**帝釋天**（ナン、インダラヤ、ソワカ）。

（六）**火　天**（ナン、アギノーエイ、ソワカ）。
（七）**焔魔天**（ナン、エンマヤ、ソワカ）。
（八）**羅刹天**（ナン、ノリテーエー、ソワカ）。
（九）**水　天**（ナン、バロドヤ、ソワカ）。
（十）**風　天**（ナン、バヤベイ、ソワカ）。
（十一）**毘沙門天**（ナン、ベイシラバドヤ、ソワカ）。
（十二）**大自在天**（ナン、イサノーエイ、ソワカ）。

次に大音聲を張りあげて左の如き『**般若心經**』を三回くり返せ。

『佛說摩訶般若波羅密多心經、
觀自在菩薩、行深般若波羅密多、時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子、色不異空、空不異色、色卽是空、空卽是色、受想行識亦復如是舍利子、是諸法空相、不生不滅、不垢不淨、不增不滅、是故空中、無色無受想行識、無眼

耳鼻舌身意、無色聲香味觸法、無眼界乃至無意識界無々明、亦無々明盡、
乃至無老死、亦無老死盡、無苦集滅道、無智亦無得、以無所得故、菩提薩
埵依、般若波羅密多、故心無罣礙、無罣礙故、無有恐怖、遠離一切顚倒夢
想究竟涅槃、三世諸佛依般若波羅密多、故得阿耨多羅三藐三菩提、故知般
若波羅密多、是大神咒、是大明咒、是無上咒、是無等々咒、能除一切苦、
眞實不虛、故說般若波羅密多咒、則說咒曰、
揭諦〳〵々、波羅揭諦、波羅僧揭諦、菩提娑婆賀、般若心經。』

これを以つて一回の護摩を終りとなす。斯くの如くにして毎日、日に三回づつ
燻修するものなり。

◉而して毎夜、丑滿時には『神仙灌頂』と云ふ事をなす事を忘るべからず。

抑も〳〵『灌頂』とは讀んで字の如く頭頂へ香水を灌ぐと云ふ意義にして密敎に於ける最極最大

の祕法を云ふ。實に灌頂は密敎の生命の宿る所にして、最も尊重せらるるものなり。吾人ひとたび灌頂を受くれば忽ちにして自己の身體そのままに神力自在の大魔力を獲得する事を得べし。されば祕藏記にも『諸佛大悲の水を以て頂に灌ぐ、即ち自行圓滿して佛果を得する事を得』とあるなり。灌頂には種々の種類あり『兩部灌頂』、『神道灌頂』、『以心灌頂』、『峯中灌頂』、『靈異灌頂』、及び『結緣灌頂』、『受明灌頂』、『傳法灌頂』、その他『甘露灌頂』、『光明灌頂』など數多あり。

中でも此の『神仙灌頂』は其の最も極祕の法にして魔力の涵養法として最も効果の著るしき祕法たるべけれど此の極祕を輕卒に茲に漏らすは餘りに畏れ多きを以て茲には之を省略す。敢て知らんと熱望する者は、よろしく『最高口傳書』を見よ。此の祕法を最も詳細に說明せるものは、世界中に於て獨り我が靈術道場の『最高口傳書』あるのみ。

◉尙ほまた八千枚護摩の修法三十五日間に於て最も大切なる事は、不動明王慈

救咒を一日に二萬遍、即ち三十五日間に渡りて七十萬遍、の咒文をば必ず〳〵唱へざるべからず。豈、一分間たりとも安閑たる事を得んや。

◉斯くて第卅五日目の結願に到るや、不眠不休、斷食斷飲、三十三回の水行を取り、晝夜、休みなく右の『不動護摩』をば焚き續け、而して第卅六日の午前一時の丑滿時より愈々、所謂る『**八千枚の大護摩**』を燻修するなり。そも〳〵此の護摩法は今まで述べ來りし所の護摩法とは大ゐに其の趣きを異にし、今までの護摩法の如く道場内に於て壇を据えて焚くに非ずして道場外に於て別に壇を据えずに山中の大巖石そのまゝを壇とし、土地そのまゝを壇となし、而して山中の雜木柴草そのまゝを護摩木として焚く大なる護摩法なれば、之をば又『**巖頭の大護摩**』とも稱し、『**庭壇大護摩**』とも名づけ『**柴燈大護摩**』とも云ふ。而も此の法たるや**修驗道**の開祖、役行者**神變大菩薩**が

日吉大明神より授かり賜ひし柱源の祕法なれば、又これを或ひは『**神道護摩**』とも云ひ『**柱源護摩**』とも稱し、尙ほ其の時の三昧が春日大明神なる時は之を『**春日大明神護摩**』と呼び奉り、天照皇大神なる時は『**天照皇大神護摩**』と稱し奉り、勝手大明神なる時は『**勝手大明神護摩**』と唱へ奉り、三寶荒神なる時は『**三寶荒神護摩**』と名づけ奉り、金比羅大權現ならば『**金比羅大權現護摩**』、八幡菩薩ならば『**八幡大菩薩護摩**』、稻荷大明神ならば『**稻荷大明神護摩**』とこそ稱し奉るなるべけれ。

◉扨て其の法を說明せんに修驗の大行者たる『**五鬼童上人**』の大祕密の寫本に依つて之を傳授せん。其の寫本の奥書に曰く、

右神道護摩ノ祕法ハ龍樹菩薩ガ開塔ノ源記、神變大菩薩ガ、日吉大明神ヨリ付法ノ祕要ニシテ五鬼ニ付屬セル極祕ナリ。必ズ容易ニ他見他傳ヲ許サザルトコロナレドモ今、汝ノ信

望ニ依リ、唯ダ汝一人ニノミ之ヲ傳フ。必ズ私意ヲ以テ混亂スベカラズ。慎ンデ祕スベシ

祕スベシ。

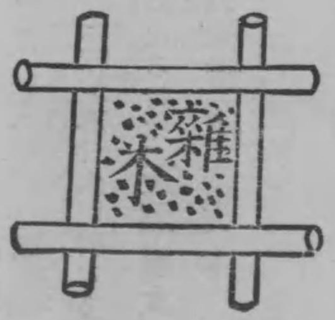
維時文化乙亥夏、

受者、正善院快友

傳燈先達、五鬼正統五十八世、五鬼童義圓 花押

夫れ斯くの如く大切なる祕法なれば諸子は堅く祕密を守りて絶對に他人に傳授すべからず。若し強いて妄りに之を漏らさば忽ち恐るべき神罰を蒙むらんのみ。

◉先づ山中の巨大なる岩石の平面へ檜、あるひは杉の如き山中にある枯木の丸木を長さ三尺六寸ほどに百八本に切りて圖の如く順次に二十七階に積むべし而して其の中央部の陷穴の所へ枯枝枯草などの如き雜木をば詰めこみ、而して其の上へ一本の『御幣』



を立てるべし。御幣を謹製せんには先づ奉書二枚を竪に三ッ折りにして之を冠紙となし、奉書二枚を竪に二ッ折りにし三刀四垂に裁ちて之を四垂となし、長さ三尺五寸、乃至五尺ぐらゐの白木の四角なる棒、卽ち幣串に前の冠紙と四垂とを挾み、其の冠紙の上下の串を紙捻にて結ぶべし。斯くして得たるものが卽ち御幣なり。此の御幣を雜木の上の中央部へ立てるなり。尙ほ此の護摩壇の向則には本尊として『太御幣』を立てるべし。『太御幣』とは圖の如く太き榊の木に神鏡、苧、及び絹布の四垂を掛けたるものにして、

太御幣の圖

其の四垂は五色又は紅白を用ふる事を要す。

◉斯くの如くにして用意し終りなば、護摩壇の前へ荒薦を敷きて行者、その上に跏坐せよ。而して更け行く深夜の松風を聞きながら一心を罩めて左の行法をなせ。

一、先ヅ左ノ『**床堅觀文**』ヲ唱フ、

『我卽**アビラウンケン**、
腰不**ア**字本不生、
臍輪**ビ**字離言說、
心上**ラ**字無垢染、
額上**ウン**字離因業、
頂上**ケン**字等虛空、
如次腰腹心額頂、
金色方形佛身地、
白色圓形大悲水、
赤色三角大智水、
黑色半月大力風、
青色圓形大空輪、

重々相累無隔別、
高下大小本不二、
帝網瑜伽遍法界、
不改自身名卽身、
如々一體不離亂、
彼此橫竪輪圓足、
心佛衆生無差別、
覺悟此分爲成佛。』

一、次ニ法螺ヲ吹ク事三回、一回ゴトニ左ノ如ク『**法螺の文**』ヲ唱フ、
三界法螺聲、
一乘妙法說、
經耳滅煩惱、
當入阿字門。

一、次ニ般若心經ヲ誦スルコト七回、

一、次ニ護摩木ノ底ヘ火ヲツケル、

一、次ニ左ノ『**無動ダラニ經**』ヲ誦スルコト一回、

『稽首聖無動尊大威怒王祕密陀羅尼經、
爾時毗盧舍那大會中有一菩薩摩訶薩。名目金剛手。與妙吉祥菩薩俱。此金剛

手是法身大士。是故名普賢。卽從如來得持金剛杵。其金剛杵五智所成故名金剛手又妙吉祥菩薩。是三世覺母故名文殊師利。如是菩薩爲度衆生現菩薩身。成就戒定慧解脫解脫知見。善能通達諸陀羅尼門。其心禪寂常住三昧。降伏衆魔令入正見。得大智慧無有障礙。能隨衆生轉大法輪。吹解脫風除衆生熱惱。雨大法雨澍衆生心地。殖善根種亦能具足祕密之藏其心自在也。或現多身。復合多身以爲一身。隨衆生願能與悉地。以宿願藥療衆生病。是大菩薩戴五髻冠顯五種智慧。智慧如日月照諸暗冥。常爲人天之所恭敬。設大法船普度苦海令到彼岸。心無傾動不染塵垢。能誘衆生令見妙色。如是功德甚深。無量設經。多劫讚不能盡。是二菩薩成就如上殊勝功德。於是金剛手菩薩入火生三昧。其光普照無邊世界。火焰熾盛焚燒諸障。內外魔軍恐怖馳走。欲入山中不能遠去。欲入大海亦不能去。擧聲大叫。唯至佛所請乞救護。捨於魔業發大悲心。釋提桓因梵天王等捨深禪定樂來入此處。天龍八部皆悉來至菩薩之所作禮而坐。

爾時金剛手從三昧起。告妙吉祥菩薩言。有大威怒王。名曰阿利耶阿闍羅拏多尾地耶阿羅惹。是大明王有大威力。以智慧火燒諸障礙。亦以法水漱諸塵垢。或現大身滿虛空中。或現小身隨衆生意。如金翅鳥噉諸毒惡。亦如大龍興大智雲而灑法雨。如大力劍摧破魔軍。亦如羂索縛大力魔。如親友童子給仕行人。其心不驚住。不動定。是大明王無其所居。但住衆生心想之中。所以者何。虛空廣故世界無邊。世界無邊故衆生界廣。衆生界廣故法身體廣。法身體廣故遍法界。遍法界故以無相爲體。無相而有相。隨行者意現其形體。其身非有非無非因非緣非自非他非方非圓非長非短非出非沒非生滅非造非起非爲作非坐非臥非行住非動住非轉非閑靜非進非退非安危非是非々々得失非彼非此去來非青非黃非赤非白非紅非紫非種々色。唯圓滿大定智慧無不具足。卽以大定德故坐金剛盤石。以大智德故現迦樓羅焰。以大悲德現種々相貌。其形青黑似暴惡相。執智慧劍害貪瞋癡。或持三昧索縛繫難伏者。常爲天龍八部之所恭敬。若纔憶

念是威怒王能令作一切障難者皆悉斷壞一切衆魔。不殺親近。常當遠離是修行者所住之處一百由旬內無有魔事及鬼神等。時金剛手說最勝根本陀羅尼曰。

ナーマクサラバタターガテービヤク、サルワボッケービヤク、ザルワータータ、ターサンダマカルシャナカンカイカイサルワビギナン、ウンタラ、ターカンマン。

總誦是眞言出大智火梵燒一切魔軍。三千大千世界咸被大忿怒王威光梵燒成大火聚。唯除十地菩薩等一切佛土。燒諸冥衆後。以法藥令得安穩。時金剛手而說偈曰。

若持是眞言、　成就無傾動、　燒諸往昔罪、　降伏大魔王、　所求一切事、
隨時得成就、　十二大天等、　常來而加護、　東北伊舍那、　東方帝釋天、
東南火光尊、　南方焰魔天、　西南羅刹天、　西方水雨天、　西北吹風雲、
北方多聞天、　上方大梵天、　下方持地天、　日天照衆闇、　月天淸淨光、

如是大力天、　而來圍遶彼、　或蒙明王伏、　還敬作擁護、　使者矜羯羅、
及與制吒迦、　俱利迦龍王、　藥厠抳使者、　如是大眷屬、　或隱或顯來、
奉仕修行者、　如敬於世尊、　若爲大根者、　現聖者忿怒、　根性中根者、
得見二童子、　若下根行人、　生怖不能見、　是故大明王、　爲現親友形、
如是隨根生、　而作大利益、　漸々誘進彼、　入於阿字門。

爾時金剛手菩薩說是偈已。普觀大衆而告之言。善哉。大會皆由宿善故今來得聞如是明王及大力神咒。若欲見是大明王者應修捨身修行法。復說眞言曰。

ナーマクサンマンダ、ワジラナンアモキャサンダンマアルサタソハタヤアナヤアサンマギニウンウンビキチン、ウンタラターカンマン。

修眞言行人持誦是眞言從身放光明。降伏諸魔王。所求一切事隨持得成就。是故名護身。能得無恐怖。亦有眞言。明名加護。住處遠離諸惡怖。常得勝安隱。彼大眞言曰。

ナーマクサンマンダワジラナンアモキャサンダンマアルサナソワタヤサルワ
ビギチンママソハサテサンチジハンメーアソラトーコロタラマヤタラマヤ、
ウンタラダーカンマン。
慈救咒。ナーマクサンマンダ、バーサラダン、サンダーマーカラシヤータン
ソワタヤ、ウンタラターカンマン。
一字咒。ナーマクサンマンダ、ワシラナンカン。
金剛手言。一切衆生意想不同。是故如來或現慈體。或現忿怒。教化衆生各々
不同。隨衆生意而作利益。雖破魔軍後與法樂。雖現忿怒內心慈悲。如魔醯首
羅者得第八地。慈善根力應以知之。說是語已。復告。大衆若如欲成就是法者
入山林寂靜之處求淸淨地。建立道場修諸梵行。』作念誦法則見本尊圓滿悉地。
或入河水而作念誦。若於山頂樹下塔廟之處作明誦法速得成就。或於安置般若
經處作之成就。如是修時整其三業不造衆罪。亦不親近諸餘惡人。作諸護摩事

速得悉地。不食五辛酒肉。作之成就。而說偈曰。

若能行是、　功德不可量、　如法作念誦、　卽得大悉地、　行者修苦行、
或心相淸淨、　三洛叉數滿、　常得見本尊、　欲驗法成者、　能移山及動、
能使水逆流、　隨意成諸事、　欲見諸佛土、　明王忽出現、　頂戴修行者、
能令得見之、　何況餘求事、　隨持得成就、　不墮四惡趣、　決定證妙果、
如是諸功德、　我讚不能盡、　唯大聖世尊、　能知如是法。

爾時佛告妙吉祥菩薩而作是言。若未來世有諸行人。由宿福故得聞如是明王名
號。或復受持是聖無動尊大威怒王陀羅尼經者。當知是人無有橫死。亦無有恐
怖。蒙諸天護持無諸障礙。何況如上作念誦者其福無量。作是語已。默然而坐。
金剛手言。善哉善哉。如大聖說說是言已。遂其本意還着本座。
爾時大衆聞說是經已。各得勝位。皆大歡喜信受奉行。聖無動尊大威怒王祕密
陀羅尼經。』

一、次ニ『神佛呼び出しの祕術』ニヨリテ或ヒハ天照皇大神或ヒハ春日大明神或ヒハ丹生大明神或ヒハ嚴島大明神或ヒハ妙理大權現或ヒハ愛宕大明神或ヒハ住吉大明神或ヒハ香取大明神或ヒハ金比羅大權現或ヒハ藏王大權現何レカ自己ノ欲スル所ノ神尊ヲバ自己ノ眼前ニ呼ビ降シテ其ノ三昧ニ入レ。但シ此ノ『呼ビ出シノ法』ハ特別行者ニ非ザレバ傳授セザルモノトス。ヨロシク『特別口傳書』ニツイテ見ヨ。

一、次ニ八千本ノ護摩木（此ノ護摩木ハ不動護摩ノ時ノモノト同ジ長サナリ。但シ之ハ前ヨリ豫メ用意シ置クモノトス。）ヲバ燃エツツアル火中ヘ續ケザマニ投ゲ入レルベシ。但シ一本ゴトニ光明眞言ヲ一回ヅツ唱ヘルモノトス。因ミニ曰ク、今ハ『八千枚護摩』ノ方法ナルガ故ニ、斯ク八千本ノ護摩木ヲ燃修スルナレド、行者ニシテ若シ其ノ勇猛心アラバ此ノ場合ニ八萬本ノ護摩木ヲ燃ズベシ、若シマタ更ニ其ノ意氣アル者ハ八十萬本、乃至八百萬本ヲ燃ズレバ尙ホ可ナリ。八萬本燃修スルヲ『八万枚護摩』ト稱シ、八十萬本

ナルヲ『八十万枚護摩』ト云ヒ、乃至八百萬本ナルヲ『八百万枚護摩』ト云フ。共ニ祕密最勝ノ大行法ナリ。

一、次ニ大猛心ヲ奮ヒ起シテ焰々タル護摩ノ火中ニ飛ビ入リ、其ノ火焰中ニ直立シツツ左ノ『妙法蓮華經觀世音菩薩普門品』ヲ大聲ニ唱ヘヨ、

『妙法蓮華經觀世音菩薩普門品

爾時。無盡意菩薩。卽從座起。偏袒右肩合掌向佛。而作是言。世尊。觀世音菩薩。以何因緣。名觀世音。佛告無盡意菩薩。善男子。若有無量百千萬億。衆生受諸苦惱。聞是觀世音菩薩。一心稱名。觀世音菩薩。卽時觀其音聲。皆得解脫。

若有時是。觀世音菩薩名者。設入大火。火不能燒。由是菩薩威神力故。

若爲大水所漂。稱其名號。卽得淺處。

若有百千萬億衆生。爲求金銀。瑠璃。硨磲。瑪瑙。珊瑚。琥珀。眞珠等寶。

入於大海。假使黑風。吹御船舫。飄墮羅刹鬼國。其中若有乃至一人。稱觀世音菩薩。名者。是諸人等。皆得解脫。羅刹之難。以是因緣名觀世音。
若復有人臨當被害。稱觀世音菩薩名者。彼所執刀杖。尋段段壞而得解脫。
若三千大千國土滿中。夜叉。羅刹。欲來惱人。聞其稱觀世音菩薩名者。是諸惡鬼。尙不能以惡眼視之。況復加害。
說復有人若有罪。若無罪。杻械架鎖。檢繫其身。稱觀世音菩薩名者。皆悉斷壞。卽得解脫。若三千大千國土滿中怨賊有一商主。將諸商人。齎持重寶。經過險路。其中一人。作是唱言。諸善男子勿得恐怖。汝等應當。一心稱觀世音菩薩名號。是菩薩。能以無畏。施於衆生。汝等若稱名者。於此怨賊。當得解脫。衆商人聞。俱發聲言南無觀世音菩薩。稱其名故。卽得解脫。無盡意。
觀世音菩薩摩訶薩威神之力。巍巍如是。
若有衆生。多於婬欲。常念恭敬。觀世音菩薩。便得離欲。若多瞋恚。常念恭

敬。觀世音菩薩。便得離瞋。若多愚癡。常念恭敬。觀世音菩薩。便得離癡。
無盡意。觀世音菩薩。有如是等。大威神力。多所饒益。是故衆生。常應心念。
若有女人。設欲求男。禮拜供養觀世音菩薩。便生福德。智慧之男。設欲求女。便生端正。有相之女。宿植德本衆人愛敬。無盡意。觀世音菩薩有如是力。
若有衆生。恭敬禮拜。觀世音菩薩。福不唐捐。
是故衆生。皆應受持。觀世音菩薩名號。無盡意。若有人。受持六十二億。恆河沙菩薩名字。復盡形供養。飲食衣服臥具。醫藥。於汝意云何。是善男子。善女人。功德多不。無盡意言。甚多。世尊。佛言。若復有人。受持。觀世音菩薩名號。乃至一時。禮拜供養。是二人福。正等無異。於百千萬億劫。不可窮盡。無盡意。受持。觀世音菩薩名號。得如是。無量無邊。福德之利。
無盡意菩薩。白佛言。世尊。觀世音菩斷。云何遊此娑婆世界。云何而爲衆生說法。方便之力。其事云何。

佛告無盡意菩薩善男子。若有國土。衆生應以佛身得度者。觀世音菩薩。即現佛身。而爲說法。應以辟支佛身得度者。即現辟支佛身。而爲說法。應以聲聞身。得度者。即現聲聞身。而爲說法應以梵王身。得度者。即現梵王身。而爲說法。應以帝釋身。得度者即現帝釋身。而爲說法。應以自在天身。得度者。即現自在天身。而爲說法。應以大自在天身。得度者。即現大自在天身。而爲說法。應以天大將軍身。得度者。即現天大將軍身。而爲說法。應以毘沙門身。得度者。即現毘沙門身。而爲說法。應以小王身。得度者。即現小王身。而爲說法。應以長而身。得度者。即現長者身。而爲說法。應以居士身。得度者。即現居士身。而爲說法。應以宰官身。得度者。即現宰官身。而爲說法應以婆羅門身。得度者。即現婆羅門身。而爲說法。應以比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷身。得度者。即現比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷身。而爲說法。應以長者。居士。宰官。婆羅門。婦女身。得度者。即現婦女身。而爲說法。應以童

男童女身。得度者。即現童男童女身。而爲說法。應以天龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等身。得度者即皆現之。而爲說法。應以執金剛神。得度者即現執金剛神。而爲說法。無盡意。是觀世音菩薩成就如是功德。以種種形。遊諸國土。度脫衆生。是故汝等。應當一心。供養觀世音菩薩。是觀世音菩薩。摩訶薩。於怖畏急難之中。能施無畏。是故此娑婆世界。皆號之爲施無畏者。無盡意菩薩。白佛言世尊。我今當供養。觀世音菩薩。即解頸。衆寶珠瓔珞。價直百千兩金。而以與之。作是言。仁者。受此法施。珍寶瓔珞。時觀世音菩薩。不肯受之。無盡意復白觀世音菩薩言。仁者。愍我等故。受此瓔珞。爾時佛告觀世音菩薩。當愍此無盡意菩薩及四衆天龍夜叉乾闥婆。阿脩羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。故受是瓔珞。即時觀世音菩薩。愍諸四衆。及於天龍。人非人等。受其瓔珞分作二分。一分奉釋迦牟尼佛。一分奉多寶佛塔。無盡意。觀世音菩薩。有如是自在神力。遊於

娑婆世界。

爾時。無盡意菩薩以偈問曰。

世尊妙相具、我今重問彼、佛子何因緣、名爲觀世音、具足妙相尊、
偈答無盡意、汝聽觀音行、善應諸方所、弘誓深如海、歷劫不思議、
侍多千億佛、發大清淨願、我爲汝略說、聞名及見身、心念不空過、
能滅諸有苦、假使興害意、推落大火坑、念彼觀音力、火坑變成池、
或漂流巨海、龍魚諸鬼難、念彼觀音力、波浪不能沒、或在須彌峯、
爲人所推墮、念彼觀音力、如日虛空住、或被惡人逐、墮落金剛山、
念彼觀音力、不能損一毛、或值怨賊繞、各執刀加害、念彼觀音力、
咸卽起慈心、或遭王難苦、臨刑欲壽終、念彼觀音力、刀尋段段壞、
或囚禁架鎖、手足被杻械、念彼觀音力、釋然得解脫、呪詛諸毒藥、
所欲害身者、念彼觀音力、還著於本人、或遇惡羅刹、毒龍諸鬼等、

念彼觀音力、時悉不敢害、若惡獸圍繞、利牙爪可怖、念彼觀音力、
疾走無邊方、蚖蛇及蝮蠍、氣毒煙火燃、念彼觀音力、尋聲自回去、
雲雷鼓掣電、降雹澍大雨、念彼觀音力、應時得消散、衆生被困厄、
無量苦逼身、觀音妙智力、能救世間苦、具足神通力、廣修智方便、
十方諸國土、無刹不現身、種種諸惡趣、地獄鬼畜生、生老病死苦、
以漸悉令滅、眞觀清淨觀、廣大智慧觀、悲觀及慈願、常願常瞻仰、
無垢清淨光、慧日破諸闇、能伏災風火、普明照世間、悲體戒雷震、
慈意妙大雲、澍甘露法雨、滅除煩惱燄、諍訟經官處、怖畏軍陣中、
念彼觀音力、衆怨悉退散、妙觀音世音、梵音海潮音、勝彼世間音、
是故須常念、念念勿生疑、觀世音淨聖、於苦惱死厄、能爲作依怙、
具一切功德、慈眼視衆生、福聚海無量、

爾時持地菩薩。卽從座起。前白佛言。世尊。若有衆生。聞是觀世音菩薩品。

自在之業。普門示現。神通力者。當知是人。功德不少。佛說是普門品時。衆中八萬四千衆生皆發無等等。阿耨多羅三藐三菩提心。』

斯クノ如ク焔々タル護摩ノ火炎中ニ直立シテ普門品ヲ讀經スルヲ『**火中讀經の術**』ト云フ。此ノ術ヲ行フニ際シテ『**水生三昧の祕法**』ト稱スル祕術ヲ使ヘバ火焔中ニ直立シテ何等ノ熱苦ヲ感ゼズ。卽チ是レマタ一種ノ『**火渡りの術**』トモ稱シ得ベシ。但シ此ノ『水生三昧ノ祕法』ノ實修法ハ『最高口傳書』ニ讓ル。

一、火中ニテ右ノ普門品ヲ一卷唱ヘ終ルヤ拍掌ヲ打ツコト七遍。而シテ火ノ外ニ出ルベシ。之ヲ以テ八千枚護摩ハ終結ス。

◉以上の如くにして三十五日間の修法が無事に終れば行者の身體には既に堂々たる無盡の靈力が備われものと云ひ得べく、以つて嬉々として下山すべきなり。

南無大聖不動明王、南無大聖不動明王、南無大聖不動明王!!

『蛇の卷』終了

第參卷　奥傳の部

――火の巻――

弘法大師の御眞筆

不可思議や『火の卷』

霊術道場

◉謹しみ敬忌て八百萬箇の神等に則祝ぎ申す。天の下清かれば世の末の穢れ逗まらず。神の根清かれば人の枝の汚れ堪へず。祇清く杪清かれば罪と云ふ罪、穢れと云ふ穢れ、禍と云ふ禍、祟りと云ふ祟り悉りになしと『火の卷』を捧げつつ恐こみ恐こみ則祝ぎ申須。

◉夫れ眞言祕密の中でも『**孔雀王呪法**』ほど恐ろしき術は又と他にあるまじ。此の術は聞くも恐ろしき『地獄の邪法』なり、『火の邪法』なり、『惡魔奉仕』の『呪ひの邪法』なり。即ち『蘇悉地羯羅經』の中に『我レ今マタ具足シテ悉地ヲ作ス法ヲ說カン……**己身ノ血**ヲモッテ塗ッテ以テ護摩シ或ヒハ苦楝木ヲ用ヒ或ヒハ屍ヲ燒ケル殘リノ柴ヲ用ヒテ以テ護摩セヨ。火ツキ終ル後ニ**屍ヲ燒ケル灰**ヲモッテ**己身ノ血**ニ和シテ護摩シ、及ビ**毒藥**ト**己身ノ血**ヲ油及ビ芥子トノ四種ヲモッテ相和シテ以テ護摩セヨ……**自己ノ身血**ヲ**毒藥**ト油ト鹽トヲ以テ相和シ夜モスガラ護摩スベシ。マタ**己ガ肉ヲ割イテ**護摩セヨ。**肉ヲ割キ**護摩センニ決定シ來タッテ其ノ成就ヲ與ヘン云々』とあるを本據とせるものにして、即ち煮えくり返り沸返り七色に燃え上る護摩の火焰に、鮮血淋漓たる唐紅の我身の

生血を撒き注ぎ、而して以て我身の血を絞り取つて神佛に獻へて祈りつめる」云ふ地獄の底の『血の淵』の如き恐ろしき護摩なれば或ひは之を『**血塗どろの護摩**』、『**血祭り護摩**』、『**血塗りの護摩**』、『**血染めの護摩**』、『**血吸ひ護摩**』、『**血供養護摩**』などと稱し、又『**地獄護摩**』、『**赤色護摩**』などとも稱し得べきか。而もたゞ單に『血』のみに非ず、更に行者自身の身體の『肉』までも其の一片を股か又は臀部より切り取つて護摩の火中に投じ以て自己の肉體の一片そのままを『人身御供』として本尊に供へ獻げると云ふ恐ろしき護摩法なれば、又、或ひは之を『**肉切り護摩**』、『**肉喰ひ護摩**』、『**肉拔げ護摩**』、『**肉燒き護摩**』、『**肉獻げ護摩**』、『**自身御供護摩**』などと云ひ得べきか。尙ほまた其の上に劇毒なる藥汁を注ぐを以て『**毒藥護摩**』とも稱し、又、屍を燒ける灰、即ち墓地の灰を燻ずるが故に之

を『**屍灰護摩**』『**死人護摩**』或ひは『**墓地護摩**』などと名づくべきものなり。斯くの如く『タラクバンウンカンキリク術』は地獄の火焔に我が身を投げ、煮えくり返り沸き返り七色に燃えあがる火焔の淵に、夜千度、晝千度、身を黒焦に燻ぶらせ、生身のままに死返り生返つて神變自在の魔王となり、以て強烈なる魔力を涵養せんとする恐ろしき基礎的魔力涵養自修法の一つなり。

◉また此の秘術に於ては『**阿部晴明の秘法**』即ち『**蟲祈り**』、或は『**百蟲魅込せ術**』と稱する陰陽道の最大秘法をも行なふなり。即ち、蛇、蝦蟇、蜥蜴、蜈蚣、蝎、などの如き毒蟲をば五十匹も百匹も生きながら壺の中に封じこみ、護摩を焚き祝詞をあげて攻めかけ攻めかけ祈り詰めると云ふ邪法なり。

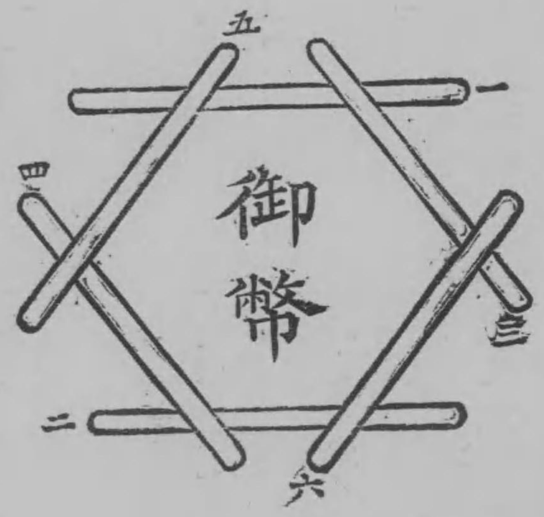
◉要するに『タラクバンウンカンキリク術』とは、恐ろしくも恐ろしき惡鬼魔神

を呼び寄せて、而して以て冷たい曉の光の中で啜り泣きながら生の大歡喜に打たれると云ふ物すごき祈の術なり。草木も眠る丑滿時、古樹欝蒼たる深山は萬籟寂として音もなく、仰げば高峯、雲際に聳え、綠碧層々千古の祕密を鎖し、峨々たる斷崖より逆まき落つる瀧水は六根清淨の水烟を飛ばす、俯しては萬仞の谿谷霧深くして、たゞ囂々たる峯の嵐を聞くのみ。此のとき、身に白裝束を着けたる一人の行者は人目を忍んで茲に大祕密の術を修す。清冽なる水を湛へて底さへ知れぬ瀧壺の側に嚴そかに設けられたる祭壇よりは、今し行者の焚く護摩の火は焰々と燃え盛り、朦々たる煙は昇りて天をも曇らす如くなり。その護摩の煙が段々と猛り狂ふに從つて修法も漸やく酣となり、今や邪術は、いよ〳〵其の極度に達しぬ。リーン、リーンと鳴る鈴の音冴えて、すさまじき法螺貝の聲と共に更けゆく深山の夜に響き渡り、見るも物すごき此の地獄の邪法はます〳〵恐ろしき光景となり、此所ぞと許りに行者はドツと火中に護摩木を燒

べ、手に呪咀の印を結び、心に邪術の觀を凝らせ、眼怒らせ齒を喰ひしばり、榊の枝をば振り動かし、水晶の珠數を磨り揉んで渾身の血をば漲らし、身を震はせて咒文を唱へ、物すごき聲にて咀ひ祈るなり。嗚呼いかに恐ろしき祕術なることよ。いかに物すごき基礎的自修法なるよ。いよ〳〵左に其の實修法をば傳授せん。ゆめ〳〵他人に漏らすべからず。祕せんかな、祕せん哉。

◉先づ八千枚護摩法の時と同じく適當なる山中に道場を設け、祭壇の中央には本尊として行者自身を祭り、自分て自分の身體を祭り拜むべし。斯く行者が自分自身の身體を本尊となし御神體となせるものを『**自己大明神**』と名づく。即ちこれ密敎で最極の祕法とせる『**自供養の祕法**』なり。但し此の、自分自身を御神體として祭る法、即ち『自己大明神』の謹製法は絶對祕密なれば殘念ながら茲には説明する事を得ず『最高口傳書』に讓る

◉其の他、御幣、注連縄、神鏡、などの祭壇の餘りつけは八千枚護摩法の時と同じ。但し、壇の前方、一段高き所に、前述の如き毒虫を入れて密封せる壺を置く。而して三十五日間の斷食、及び其の間に於ける日々の水行、及び修法も前と同じ方法を以てす。たゞ日に三回づつ焚くべき護摩は、此の場合に於ては不動護摩にあらずして『**自供養護摩**』即ち、行者が、行者自身の身體に拜むべき護摩法なり。其の法たるや、先づ血液沸騰法と同樣の護摩壇を据え其の四隅に御幣を立て、一百八本の護摩木の積み方は圖の如く順次十八階に積み重ね、其の上より中央の穴へ小さき



御幣をば一本、さしこむべし。而して其の焚き方は。

◉一、先ヅ拍掌三回、

一、次ニ般若心經一卷、

一、次ニ『無所不至の印』ヲ結ビ心ニ『金剛界阿字の觀』ヲ凝ラシツツ光明眞言ヲ誦スルコト二十一遍。但シ『金剛界阿字の觀』トハ寫眞版ノ挿繪ノ如シ。

一、次ニ拍掌三回、

一、次ニ合掌シツツ祝詞ノ如キ嚴ソカナル句調ヲ以テ、左ノ神歌ヲ唱フルコト三回、

てゝゟ𑖨𑖭 字流レノ末汲ミテ
今モ神代ノ祭ゴトセン

一、次ニ拍掌三回。合掌シツツ同ジク左ノ祝詞ヲ三回、

金剛界阿字觀の圖

千刄振ル神代ノ水ノ水ニテソ
濁穢ノ身ヲゾ清ムル

一、次ニ拍掌三回。同ジク左ノ祝詞ヲ三回、

護摩ヲ焚ク、此所モ高天原ナレバ
集リタマヘ四方ノ神々

一、次ニ神道用ノ千成鈴ヲ振リ鳴ラシツツ、左ノ祝詞ヲ三回、

久方ノ天ノ八重雲、押分テ
天降リマセ天津神々

一、次ニ同ジク鈴ヲ鳴ラシテ左ノ祝詞ヲ三回、

掛マクモ畏キ神ノ社ナリ
乳炁ノ息ハ外宮内宮

一、次ニ同ジク鈴ヲ鳴ラシツツ左ノ祝詞ヲ三回、

大日如來、不動明王ノ加持アリテ

我身コノママ天照皇大神

一、次ニ法螺貝ヲ吹キ鳴ラスコト七聲ニシテ『法螺の文』ヲ唱フ、

一、次ニ圖ノ如キ『**轉法輪の印**』ヲ結ビツツ左ノ『**一切如來大乘阿毗三摩耶百字眞言**』ヲ唱フルコト三回、

『ヲンボダラサトハサンマヤ、マドハラヤ、ボダラサトバ、チベイドハチシュダチリターメーバンバ、ソトシュユメーバンバ、アドラキトメーバンバ、ソボシシッタシリヤクロウンカカカカク、バガハンサラバタターガター、ボタラマユメーバンバ、サラシッタ、ヨーメーハラヤシャ、サラバカラマリシャメー

メーモンシャボダバンバ、サカサンマヤサトバン』

一、次ニ護摩壇ニ火ヲ移ス、

一、次ニ『**理趣三昧の祕法**』ヲ凝ラスベシ。『理趣三昧の祕法』トハ『**大貪染三昧の祕法**』トモ稱シ最モ極祕トナス。其ノ法ハ要スルニ『**般若理趣經**』即チ『**大樂金剛不空眞實三摩耶經**』ト稱スル大祕密ノ經ヲ讀ムコトナレドモ、其ノ讀經法タルヤ單ナル文句ノ讀經ニ非ズシテ、其ノ讀經中ニ於テ、口ニ讀經ヲナシツヽ、手ニ『**理趣經十七段印**』ト稱スル十七箇ノ祕印ヲ結ビ、心ニ『**理趣經十七段觀**』ト稱スル十七個ノ祕密觀法ヲ凝ラスナリ。此ノ理趣經十七個ノ段々印、及ビ印々觀ハ是レ龍樹菩薩ヨリ般若僧正ヘ御直傳ノ祕傳ニシテ、密敎ノ僧侶ト雖モ此ノ祕法ヲ知ラズ、然ルニ今ソレ諸子ハ此ノ無二ノ大祕法ヲ授カラムトス、祕スベシ祕スベシ。扨テ其ノ祕法トハ、抑モ〳〵理趣經一卷ヲ別チテ十七段トナス。即チ、最初ノ『如是我聞……』ノ句ヨリ

『……不空三摩耶心』マデヲ初段トシテ之ヲ『**金剛薩埵初集會品**』ト云ヒ、『時薄伽梵……乃至……自性平等心』ヲ第二段トシテ之ヲ『**大日理趣會品**』ト稱シ、『時調伏難……乃至……金剛呼迦羅心』ヲ第三段トシテ之ヲ『**降三世品**』ト名ヅケ、『時薄伽梵得自性清淨……乃至……種々色心』ヲ第四段トシテ之ヲ『**觀自在品**』ト呼ビ、斯クノ如ク順次、第五段ヲ『**虛空藏品**』、第六段ヲ『**金剛拳品**』、第七段ヲ『**文珠品**』、第八段ヲ『**轉法輪品**』、第九段ヲ『**虛空庫品**』、第十段ヲ『**摧一切魔品**』、第十一段ヲ『**降三世教令輪品**』、第十二段ヲ『**外金剛會品**』、第十三段ヲ『**七母天品**』、第十四段ヲ『**三兄弟品**』、第十五段ヲ『**姉妹品**』、第十六段ヲ『**五部具會品**』、第十七段ヲ『**五祕密品**』、云フナリ。而シテ今『理趣三昧の祕法』ヲ修スルニハ此ノ十七段ゴトニ夫レ〴〵獨特ノ印ヲ結ビ獨特ノ神號觀ヲ凝ラシツツ讀經シテ行クナリ。例之ヘバ初段ヲ唱ヘ居ル時ハ、手ニ金剛拳ヲ結ビ心ニ天照皇大神ノ神

號觀ノ圖ヲ畫キ念ジ、次ニ讀經ガ第二段ヘ移レバ直チニ前ノ印ヲ解キテ智拳印ヲ結ビ、心ニハ妙理大明神ノ神號觀ヲ凝ラスガ如ク、斯クノ如クニシテ順次終リマデ各段毎ニ印ト觀トヲ合セナシツツ讀經シテ行クナリ。今左ニ理趣經ノ全文ヲ掲ゲテ各段毎ニ其ノ結印法ト神號觀ノ圖トヲ示サン。神號觀ハ此ノ繪ト同ジ繪ヲ自己ノ胸中ニ念ジ畫クベキモノトス。

『**大樂金剛不空眞實三摩耶經**、（又ハ般若波羅蜜多理趣經）

（**結印法**）左右ノ手ヲ各々金剛拳ニナシ、右拳ヲ胸ニ安ジ左拳ヲ腰ニ安ズ。

如是我聞一時薄伽梵成就殊勝一切如來金剛加持三摩耶智已得一切如來灌頂寶冠爲三界主已證一切如來一切智智瑜伽自在能作一切如來一切印平等種種事業於無盡無餘一切衆生界一切意願作業皆悉圓滿常恒三世一切時身語意業金剛大毗盧遮那如來在於欲界他化自在天王宮中一切如來常所遊處吉祥稱歎大摩尼殿种种間錯鈴鐸增幡微風搖擊珠鬘珞瓔半滿月等而爲莊嚴與八十俱胝菩薩衆俱所謂金剛手菩薩摩訶薩觀自在菩薩摩訶薩虛空藏菩薩摩訶薩金剛拳菩薩摩訶薩文殊師利菩薩摩訶薩纔發心轉法輪菩薩摩訶薩虛空庫菩薩摩訶薩摧一切魔菩薩摩訶薩與如是等大菩薩衆恭敬圍繞而爲說法初中後善文義巧妙純一圓滿清淨潔白說一切法清淨句門所謂妙適清淨句是菩薩位慾箭清淨句是菩薩位觸清淨句是菩薩位愛縛清淨句是菩薩位一切自在主清淨句是菩薩位見清淨句是菩薩位適悅清淨句是菩薩位愛清淨句是菩薩位慢清淨句是菩薩位莊嚴清淨句是菩薩位意滋澤清淨句是菩薩位光明清淨句是菩薩位身樂清淨句是菩薩位色清淨句是菩薩位聲

清淨句是菩薩位香清淨句是菩薩位味清淨句是菩薩位何以故一切法自性清淨故般若波羅蜜多清淨金剛手若有聞此清淨出生句般若理趣乃至菩提道場一切蓋障及煩惱障法障業障設廣積習必不墮於地獄等趣設作重罪消滅不難若能受持日日讀誦作意思惟卽於現生證一切法平等金剛三摩地於一切法皆得自在受於無量適悅歡喜以十六大菩薩生獲得如來執金剛位時薄伽梵一切如來大乘現證三摩耶一切曼荼羅持金剛勝薩埵於三界中調伏無餘一切義成就金剛手菩薩摩訶薩爲欲重顯明此義故熙怡微咲左手作金剛慢印右手油擲本初大金剛作勇進勢說大樂金剛不空三摩耶心。

(結印法)四種拳ノウチノ如來拳印ヲ結ブ。

時薄伽梵毗盧遮那如來復說一切如來寂靜法性現等覺出生般若理趣所謂金剛平等現等覺以大菩提金剛堅固故義平等現等覺以大菩提一義利故法平等現等覺以大菩提自性清淨故一切業平等現等覺以大菩提一切分別無分別性故金剛手若有聞此四出生法讀誦受持設使現行無量重罪必能超越一切惡趣乃至當坐菩提道場速能尅證無上正覺時薄伽梵如是說已欲重顯明此義故熙怡微笑持智拳印說一切法自性平等心。

(結印法)先ヅ兩手ヲ忿怒拳ニナシ、而シテ小指ヲ互ニ鉤スベシ。

時調伏難調釋迦牟尼如來復說一切法平等最勝出生般若理趣所謂慾無戲論性故瞋無戲論性瞋無戲論性故癡無戲論性癡無戲論性故一切法無戲論性一切法無

戲論性故應知般若波羅蜜多無戲論性金剛手若有聞此理趣受持讀誦設害三界一切有情不墮惡趣爲調伏故疾證無上正等菩提時金剛手大菩薩欲重顯明此義故持降三世印以蓮華面微咲而怒頻眉猛視利牙出現住降伏立相說此金剛吽迦羅心。

(結印法)兩手ヲ金剛拳ニナシ、右拳ノ小指ヲ以テ、左拳ノ五指ヲバ小指ヨリ順次ニ開キ散セシム。

時薄伽梵得自性清淨法性如來復說一切法平等觀自在智印出生般若理趣所謂世間一切慾清淨故卽一切瞋清淨世間一切垢清淨故卽一切罪清淨世間一切法清淨故卽一切有情清淨世間一切智智清淨故卽般若波羅蜜多清淨金剛手若有聞此理趣受持讀誦作意思惟設住諸慾猶如蓮華不爲客塵諸垢所染疾證無上正等菩提時薄伽梵觀自在大菩薩欲重顯明此義故熙怡微咲作開敷蓮華勢觀欲不染說一切群

生種種色心。

（結印法）外縛拳ヲナシ頭指ヲ立合セ、而シテ自己ノ頭ノ上ニ安ズ。

時薄伽梵一切三界主如來復說一切如來灌頂智藏般若理趣所謂以灌頂施故能得三界法王位義利施故得一切意願滿足以法施故得圓滿一切法資生施故得身口意一切安樂時虛空藏大菩薩欲重顯明此義故熙怡微咲以金剛寶鬘自繫其首說一切灌頂三摩耶寶心。

（結印法）左右ヲ金剛拳トナシ、右拳ヲ左拳ノ上ニ置ク。

時薄伽梵得一切如來智印如來復說一切如來智印加持般若理趣所謂持一切如來身印卽爲一切如來身持一切如來語印卽得一切如來法持一切如來心印卽證一切如來三摩地持一切如來金剛印卽成就一切如來身口意業最勝悉地金剛手若有聞此理趣受持讀誦作意思惟得一切自在一切智智一切事業一切成就得一切身口意金剛性一切悉地疾證無上正等菩提時薄伽梵爲欲重顯明此義故熙怡微咲持金剛拳大三摩耶印說此一切堅固金剛印悉地三摩耶自眞實心。

（結印法）先ヅ兩手ヲ開キ散ジ、左右ノ中指端腹ヲ合セ、兩方カラ押シアフナリ。

時薄伽梵一切無戲論如來復說轉字輪性若理趣所謂諸法空與無自性相應故諸法

無相與無相性相應故諸法無願與無願性相應故諸法光明般若波羅蜜多清淨故時文殊師利童眞欲重顯明此義故熙怡微笑以自劒揮斫一切如來以說此般若波羅蜜多最勝心。

(結印法)左右ヲ金剛拳ニナシ、頭指ヲ互ニ鉤交セシム

時薄伽梵一切如來入大輪如來復說入大輪般若理趣所謂入金剛平等則入一切如來法輪入義平等則入大菩薩輪入一切法平等則入妙法輪入一切業平等則入一切事業輪時纔發心轉法輪大菩薩欲重顯明此義故熙怡微哭轉金剛輪說一切金剛三摩耶心。

(結印法)左右ヲ劒印、即チ刀印ヲナシ、二中指ト二頭指ト各ソノ頭指ヲ合セテ兩方カラ押シアフ也。

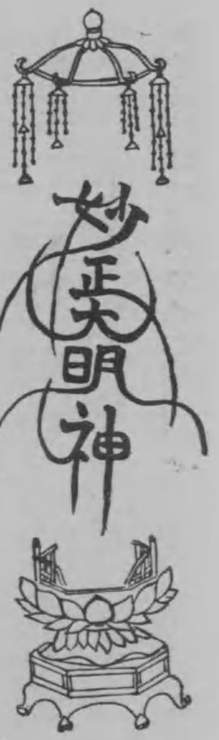
時薄伽梵一切如來種種供養藏廣大儀式如來復說一切供養最勝出生般若理趣所謂發菩提心則爲於諸如來廣大供養救濟一切衆生則爲於諸如來廣大供養受持妙典則爲於諸如來廣大供養於般若波羅蜜多受持讀誦自書敎他書思惟修習種種供養則爲於諸如來廣大供養時虛空庫大菩薩欲重顯明此義故熙怡微笑說此一切事業不空三摩耶一切金剛心

(結印法)右ノ五指ニテ左左手頸ヲ握リ、左ノ五指ニテ右ノ手頸ヲ握リテ互ニ兩方カラ引張リアフベシ。

時薄伽梵能調持智拳如來復說一切調伏智藏般若理趣所謂一切有情平等故忿怒平等一切有情調伏故忿怒調一切法有情法性故忿怒法性一切有情金剛性故忿怒金剛性何以故一切有情調伏則爲菩提時摧一切魔大菩薩欲重顯明此義故熙怡微笑以金剛藥叉形持金剛牙恐怖一切如來已說金剛忿怒大吠心。

(結印法)十二合掌ノ中ノ金剛合掌ヲナス。

時薄伽梵一切平等建立如來復說一切法三摩耶最勝出生般若理趣所謂一切平等性故般若波羅蜜多平等性一切義利性故般若波羅蜜多義利性一切法性故般若波羅蜜多法性一切事業性故般若波羅蜜多事業性應知時金剛手入一切如來菩薩三摩耶加持三麽地說一切不空三麽耶心。



(結印法)反叉合掌ヲナシテ自己ノ額ニツケルベシ。

時薄伽梵如來復說一切有情加持般若理趣所謂一切有情如來藏以普賢菩薩一切我故一切有情金剛藏以金剛藏灌頂故一切有情妙法藏能轉一切語言故一切有情羯磨藏能作所作性相應故時外金剛部欲重顯明此義故作歡喜聲說金剛自在自眞實心。

(結印法)十八契印ノ中ノ金剛起ノ印ヲ結ブ。

爾時七母女天頂禮佛足獻鈎召攝入能殺能成三麽耶眞實心。

(結印法)十八契印ノ中ノ金剛輪ノ印ヲ結ブ。

爾時末度迦羅天三兄弟等親禮佛足獻自心眞言。

(結印法)十八契印ノ中ノ地結ノ印ヲ結ブベシ。

爾時四姉妹女天獻自心眞言

(結印法)十八契印ノ中ノ請車輅ノ印ヲ結ブベシ。

時薄伽梵無量無邊究竟如來爲欲加持此敎令究竟圓滿故復說平等金剛出生般若理趣所謂般若波羅密多無量故一切如來無量般若波羅密多無邊故一切如來無邊一切法一性故般若波羅密多一性一切法究竟故般若波羅密多究竟金剛手若有聞此理趣受持讀誦思惟其義彼於佛菩薩行皆得究竟。

時薄伽梵毗盧遮那得一切祕密法性無戲論如來復說最勝無初中後大樂金剛不空三摩耶金剛法性般若理趣所謂菩薩摩訶薩大慾最勝成就故得大樂最勝成就菩薩摩訶薩得大樂最勝成就故則得一切法來大菩提最勝成就菩薩摩訶薩得一切如來大菩提最勝成就故則得一切如來摧大力魔最勝成就菩薩摩訶薩得一切如來摧大

力魔最勝成就故則得遍三界自在主成就菩薩摩訶薩得遍三界自在主成就故則得
淨除無餘界一切有情住著流轉以大精進常處生死救攝一切利益安樂最勝究竟
皆悉成就何以故

菩薩勝慧者、　乃至盡生死、　恒作衆生利、　而不趣涅槃、　般若及方便、
智度悉加持、　諸法及諸有、　一切皆清淨、　慾等調世間、　令得淨除故、
有頂及惡趣、　調伏盡諸有、　如蓮體本染、　不爲垢所染、　諸慾性亦然、
不染利群生、　大慾得清淨、　大安樂富饒、　三界得自在、　能作堅固利、

金剛手若有聞此本初般若理趣日日晨朝或誦或聽彼獲一切安樂悅意大樂金剛不
空三昧究竟悉地現世獲得一切法自在悅樂以十六大菩薩生得於如來執金剛位。

(結印法)二手ヲ金剛拳ニシテ各々、頭指ト中指ヲ伸ベ掌ヲ自身ニ向ケ中指ノ頭チバ側メ合ス。

爾時一切如來及持金剛菩薩摩訶薩等皆來集會欲令此法不空無礙速成就故咸共
稱讚金剛手言。

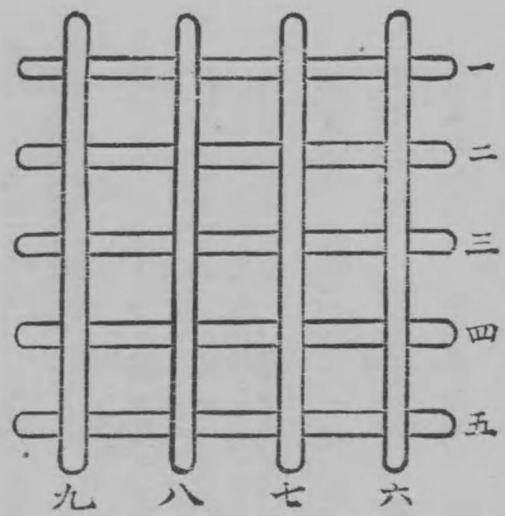
善哉善哉大薩埵、　善哉善哉大安樂、　善哉善哉摩訶衍、　善哉善哉大智慧、
善能演說此法敎、　金剛修多羅加持、　持此最勝敎王者、　一切諸魔不能壞、
得佛菩薩最勝位、　於諸悉地當不久、　一切如來及菩薩、　共作如是勝說已、
爲令持者悉成就、　皆大歡喜信受行、

毗盧遮那佛、　毗盧遮那佛、　毗盧遮那佛、　毗盧遮那佛、　毗盧遮那佛、
毗盧遮那佛、　毗盧遮那佛、　毗盧遮那佛、

我等所修三昧善、　廻向最上大悉地、　哀愍攝受願海中、　消除業障證三昧、
天衆神祇增威光、　當所權現增法樂、　自己大明神增法樂、　貴賤靈等成佛道、
聖朝安穩增寶壽、　天下安樂興正法、　護持弟子除不祥、　滅罪生善令滿足、
菩提行願不退轉、　引導三有及法界、　同一性故入阿字、』

一、次ニ鈴ヲ振リナガラ光明眞言ヲ唱ヘルコト七回。
これを以つて一回の修法を終りとなす。

◉斯くて第卅五日目に到れば右の護摩をば晝夜に百遍乃至千遍焚き、最後に所謂る『血塗りの護摩』を焚くなり。其の護摩木の積み方は圖の如く十二階に百〇八本を組み重ぬべし。而して其の焚き方は前述の『自供養護摩』と大差なし。たゞ略なる點は『理趣三昧の祕法』に於て第十六段目に、虫封じせる例の壺をば其のまま火中に投じ、尙ほ其の上に墓地の土、或ひは火葬場の灰と、



毒藥と鹽とを火中に投じ、第十七段目に入るや否や、神前に獻へある德利の中の血（これは第卅五日目の朝、自己の指又は其他適當な所を切りて絞り取り德利に入れ、小さき御幣を突き差して神前に、そなへ置くものとす）をば火中に投じ、而して大猛心を奮ひ起し鋭利なる刄物にて自身の臀部の肉をば切り取りて之を火中に投ずるなり。

◉以上を以て『タラクバンウンカンキリク術』の傳授は正に終りを告げぬ。次に、基礎的魔力涵養法のうち苦行門第三の方法たる『水底の邪法』とは之を一名『**胎息の術**』とも稱し支那及び印度の仙道に於ける最極の祕法にして古來幾多仙人が此の法を實修する事によつて大自在の通力を得られたること決つして其の例に乏しからず。諸子また大ゐに之を實修せられなば無限の魔力を驗得する蓋し難事に非ざる也。それ努めよや。——其の法たるや、先づ山中の大なる池か或ひは物凄き淵の如き成るべく清らかなる青々として水を湛へ而も底の深き

見てさへ慄然とする樣な物凄き池か淵を選び、其の中へ飛びこんで沈み、而して水底の岩の上へ座禪を組みて坐りながら『十三佛の祕法』を凝らすなり（但し耳の穴は綿を以て、詰め置くを要す）。

◉『十三佛の祕法』とは（一）不動明王、（二）釋迦如來、（三）文珠菩薩、（四）普賢菩薩、（五）地藏菩薩、（六）彌勒菩薩、（七）藥師如來、（八）觀音菩薩、（九）寶生如來、（十）彌陀如來、（十一）阿閦如來、（十二）大日如來、（十三）虛空藏菩薩、なる十三尊佛の『種字三昧』に入ること となり。

『種字』とは又『種子』とも書き、宇宙の森羅萬象を出生せしむる種子の字と云ふ義にして、あらゆる神佛には一尊ごとに必ず「種字」と稱する梵字が一字づつあるものなり。例之ば不動明王の種字は（カン）、大日如來の種字は（バン）、稻荷大明神の種字は（ヤン）、と云ふが如し。而して是等の一個の梵字にも無量無邊の大眞理と大功德とが胚胎せるものにして、一個の種字そのままが、堂々

たる神佛の形體と功德とを俱へたる尊像なり。されば「カン」と云ふ一個の梵字は其のまま不動明王なるべく、「バン」なる一字は其のまま大日如來なるべし。斯くの如く總べての神佛には一尊ごとに必ず「種字」と稱する梵字が一個づつあるものにして、種字そのままが神佛の尊體なりとし、神佛の畫像を祭る代りに、其の種字を掛圖に書いて祭り拜むものなり。斯樣に種字を掛圖にせるものを稱して『種字曼荼羅』、或ひは『法曼荼羅』と云ふ。

今、十三佛の『種字三昧』に入るには、先づ十三佛各尊の種字たる十三個の梵字、即ち、（一）（カン）（不動明王の種字）、（二）（アク）（釋迦如來の種字）、（三）（マン）（文殊菩薩の種字）、（四）（アン）（普賢菩薩の種字）、（五）（カ）（地藏菩薩の種字）、（六）（ニ）（彌勒菩薩の種字）、（七）（ボ）（藥師如來の種字）、（八）（サ）（觀音菩薩の種字）、（九）（タラク）（寶生如來の種字）、（十）（キリク）（彌陀如來の種字）、（十一）（ウン）（阿閦如來の種字）、（十二）（バン）（大日如來の種字）、（十三）（イ）（虛空藏菩薩の種字）、の十三字をば圖の如く列べて之を『十三佛の法曼荼羅』となすべし。但し、此の場合は、掛圖に畫くに非ず、

（十三佛の法曼荼羅）

ただ水底に於て坐しつゝ、眼前に斯樣な十三佛の法曼荼羅をば觀念し想像するなり。而も其の十三個の種字は各々みな麗はしき瑠璃色にして且つ人をして恍惚たらしむるほどの芳香を放つと觀念すべし。

◉斯くの如くに十三佛の法曼荼羅をば觀念しつゝ、いよ〳〵『種字三昧』に入るなり。卽ち此の法曼荼羅の中より先づ、第一番目不動尊の種字たる『カン』字が拔け出て來り、自分の頭上に留まりて香氣を放ちつつ次第に氷の如くに融け流れて頭髓の中心に浸潤り、何とも云へぬ快き氣味にて更に譬へ方もなきほど微妙不思議の作用を起こし、軈て次第に頸筋より兩肩に潤ほひ下りて恰かも紙の端に水を涵したる時の如く次第に額を經て眼に入れば自分の眼は忽ち鮮やかなるを覺え、又耳の方に涵み渡れる時は其の耳が忽ち淸らかになりし心地して、其れが鼻の方に到れば芳香が薰りて云はん方なく、口に到れば口中も無限の快

感を覺えつゝ、一面に首筋より肩に下れるものと涵み合ひて臂に到り腕に到り拳に到り指端に至り、前面の方は喉口より胸に及びて兩乳に到り、肺の間より肋骨に泌み渡り、背の方にまで流れ行きて、其の心持ちの快きこと云はんかた無く、胃腸より臟腑に渡り、脊髓より腰に及びて臀骨まで、次第に流れ泌みて下方に向ふこと恰かも水の流れ落つるが如く、胸腹の中に瀝々たる流聲を聞くべし。それより、其の麗はしき梵字の汁は尙ほ周ねく全身に充滿して兩脚を潤しつつ膝節を經て足の甲を過ぎ、而して以つて足の心に至りて止まると觀想すべし。斯く觀想し終れば直ちに又、第二番目の釋迦如來の種字たる『アク』が拔け出でて頭上に留まり、其れが融けて順次、自分の體內に泌みこみ流れ落つること前と同樣に觀想す。次に第三番目の『マン』字、次に第四番目の『アン』字と云ふ樣に第十三番まで順次に同じ事を繰り返すべし。而して第十三番目が終れば又、法曼荼羅を觀念して一より十三まで、なすと云ふが如く何回も出來得

るだけ、繰り返すべし。斯くして水底に坐したまま是れを二十回乃至三十回ぐらい繰り返し得る樣になれば先づ以て一角の靈力家として成功せるものと云ふべし。因みに曰く、此の十三佛三昧の法をなす時には一字ごとに、其の咒文を唱へ印契を結ばざるべからず。其の十三佛の咒文と結印法とは『特別口傳書』を見よ。但し此の時の咒文の唱へかたは『**金剛念誦**』の方法を以てす。

抑も〳〵總べて經文及び眞言咒文等を唱へる方法即ち念誦法に種々あり。先づ『**華蓮念誦**』とは、微かに自分の耳にのみ聞ゆるぐらゐの大きさで唱ふる法なり。次に玆に云ふ『**金剛念誦**』とは唇と齒とを合し、たゞ舌の尖だけ僅かに動かして唱ふ勿論少しも聲を出さず。次に『**三摩地念誦**』とは舌をも動せず、たゞ心の中で唱ふ。次に『**降魔念誦**』卽ち『**忿怒念誦**』とは忿怒の相貌をなし、眉を顰め眼を怒らせ齒を喰ひしばり顯視瞋怒の大音聲を發して叱咤するが如くに荒々しく唱へる方法なり。又『**光明念誦**』とは其の聲を出すと出さざるとに拘らず其の自分の口より光明を出すと念想して唱へるを云ふ。以上五種の念誦法を總稱して之を『**五種念誦**』と云ふ。

◉上來、縷々として述べ去り述べ來れる所のものは要するに何れも魔力涵養法

としての基礎的方法なりき。其の理行門の方法を以てするも將た又た苦行門の方法を以てするも行者自身の隨意なれど、要するに是れらの方法を以て先づ充分に基礎的の實力を養成し、而して以て所謂る靈術の實修に進むべきなり。されば是れより愈よ〳〵靈術の極祕を傳授せんとす。神通力と云ひ魔力と云ひ幻術と云ひ靈能と云ひ神術と云ふ。是れ等の事は別に不思議の事にはあらず誰人でも之を行なふ事を得るものなり。されど夫れが全然、精神靈動や念力の如き單なる人間の力のみの作用なりと斷定するは大なる誤りなり、さればとて又これを悉く神佛の力とのみ信づるも既にまた大なる誤りなり。人間の精神力は如何にも偉大なり能く修行し練磨すれば神變不思議の奇蹟を發現し得べし、然りと雖も單に吾人の精神力のみでは不可能なり、此の精神力の根源たる神明諸佛の活力と感應同交、二者互ひに相伴はざれば未だ充分に靈術を體得すべからずの茲に於てか吾人は靈術體得の極祕として『三密瑜伽』の方法を取る。

◉夫れ『三密』とは『身密』、『語密』、『意密』にして身體の作用と、言語の作用と心意の作用との三種なり。即ち身密とは手に祕密の印契を結ぶこと、語密とは口に祕密の眞言陀羅尼咒文經文を唱ふること、意密とは心に祕密の觀想を凝らすことなり。『三密平等』又は『三密加持』と稱して、今ま此の印と咒文と觀法との三作用が融合渾一すれば則ち吾人の三密そのままが神佛の三密と合致感應して驚ろくべき靈力は其處に所謂る『位置のエネルギー』となりて潛生し、軈て偉大なる奇蹟を發現するに到るものなり。されば即ち弘法大師の『即身義』にも『一々ノ尊、等シク刹塵ノ三密ヲ具シテ互相ニ加入シ彼此攝持セリ、衆生ノ三密モ亦復是ノ如シ、故ニ三密加持ト名ヅク、若シ眞言行者コノ義ヲ觀察シ手ニ印契ヲ作シ口ニ眞言ヲ誦シ心ヲ三摩地ニ住スレバ三密相應シテ加持スルガ故ニ早ク大悉地ヲ得』と稱せらる。斯くして大神通力を得んとする之を『三密瑜伽』と稱し『三密相應』と云ふ。諸子第一卷の始めより今まで傳授せられ來

りし所の基礎的實修法は皆な要するに此の『三密瑜伽』の方法なり。今後また傳授せらるべき應用的の靈術も又この『三密瑜伽』に他ならず。

◉三密瑜伽を以て單なる精神統一の形式的方法なりと考ふる勿れ。印そのまま が神佛の御身體なり、咒文そのままが神佛の御聲なり、觀法そのままが神佛の御心なり、此の身密と語密と意密の三作用を渾然合一せしめたる所に神佛は憑靈したまひ乘移りたまひて、其所に偉大なる法驗を發現するものなり。我が靈術道場の門弟たるべき諸子は、よろしく敎へらるるがまゝに之を謹修し、決つして之を形式なりと考ふるべからず。

◉三密瑜伽の方法を以つてする時は奇蹟の發現は容易なり。諸子も本祕錄に從つて法の如くに三密を實修すれば日ならずして容易に法驗を發現し得て、自分

で自分ながら其の靈力の偉大なるに驚ろくに到らん。茲に於てか愼しむべきは靈力の濫用なり。總べて是等の靈術は國家の一大事に際し自己の全靈力を犧牲にして之を行なふべきものにして、一生に一度か二度しか行なふべからざるものなり。然るに、興行師の如く奇蹟を人に見せて自れの私慾に供し或ひは一片の好奇心より此の神嚴なる靈術をば玩物的に濫用せんとするが如きに於ては何に法の如くするとも何等の法驗あらざは勿論、忽ち神佛の法罰を蒙りて恐るべき魔道に墮ち去らんのみ。諸子たるもの豈に愼しまざるべけんや。

◉先づ第一に『空中飛翔の術』より傳授せん。抑も〳〵空中飛翔術とは虛空をば自在に飛行する法にして六神通力中の『如意通』に當るものなり。神道に於ても『天翔り』及び『國翔り』と稱する事あるは實に此の空中飛翔術の事なりとす。其の他、神仙道に於ては此の術を最も大切なるものとなし、決し

て妄りに傳授せられざりし所の祕術なり。古來この祕術に通達して雲に乘り能く空中を飛行し翔登自在の飛遊をなしたる者その例に乏しからず。我が修驗道の高祖たる役行者(エンノゲウジヤ)卽ち神變大菩薩は仙術を修行して能く空中飛翔の通力を體得し、毎夜、伊豆の島より富士山へ飛遊し給ひしものなり。又、彼の有名なる久米仙人を始めとし、泰澄行者すなはち『越(こし)の小大德(せうだいとく)』と稱する仙人の如きも大いに此の通力を修得し、呵(アツ)と口を開(ひら)けば千里を飛び吽(ウン)と口を閉(とつ)れば萬里を翔(かけ)ると云ふ驚ろくべき飛行の靈力を現しぬ。其の他、照道仙人、陽勝仙人など飛翔術に通達せしものの例、枚擧に遑なし。

◉扨て此の空中飛翔術を行なはんには『**孔雀明王の祕法**』を用ふるなり。孔雀(くじやく)明王は諸佛能生の德に住するが故に『**孔雀佛母**』と稱す。梵語では『**マユリ明王**』と云ひ、密號を『**佛母金剛**』と云ふ。其の御像は、金色(こんじき)の孔雀に

孔雀明王

乘り給ひ白蓮の上に結伽跏坐し給ひ肉色にして慈悲の相に住し給ふ、四臂ありて右第一手には開敷の蓮花を持ち第二手には具縁菓を持ち左第一手は心に當てて掌に吉祥菓を持ち第二手には三五莖の孔雀尾を持ち給ふ。先づ山頂、又は其他の淨所に、香爐を据へて香を焚き、行者、身心を淨めて、其の香爐を股げて立ち心に此の孔雀明王の尊像を觀想し、手に『**孔雀明王の印**』即ち『**空中飛翔の印**』を結びながら靜かに瞑目して『**孔雀明王の呪文**』即ち『**空中飛翔の眞言**』を百〇八遍くり返すべし。『空中飛翔の印』とは左右の二手を外縛して二大指及び二小指を夫れ〴〵立て合せ、餘の二頭指二中指二無名指の六本をば扇ぎ動かして恰かも飛鳥の翅の如くに爲すべし。『空中飛翔の呪文』とは左の如し、

『ノーモボダヤ、ノーモタラマヤ、ノーモソウキヤ、タニヤタ、ゴゴゴゴゴゴ、ノーガレイ、ノーガレイ、ダバダバ、ゴヤゴヤ、ビジャヤ、ビジャヤ、トソ

トソ、ゴロゴロ、エイラメラ、チリメラ、イリミタソ、チリミタソ、イヅチリミタソ、ダメ、メダメ、トソテイ、クラベイラ、サバラ、ビバラ、イチリビチリ、リチリ、ビチリ、ノーモソトバボダナン、ソクリキシ、クドキャウカ、ノーモラカタン、ゴラダラ、バラシャトニバ、サンマテイノー、ナシヤソニシャソ、ノーマクボダナンソワカ。』

斯くの如く、呪文と印と觀想との三密平等、即ち三密瑜伽に沒入すること暫時にして忽ち行者の魔力と明王の法力とが彼此涉入の作用を起し、行者の身體は香の遙き昇ると共に、ユラ〳〵と空中に昇り行くものなり。一度び空中に昇り得れば自在に翔け廻ること極めて容易なり。

◉但し此の術を行はなんとするには七日前より斷食をなし、女色を禁斷し、身心の清淨を保ち『**飛翔の神藥**』と稱する藥を飲み、一日に一萬遍づつ左の

『**孔雀明王經**』を唱ふる事を要す。（『**飛翔の神藥**』とは之を飲めば直ちに飛翔術を體得し得ると云ふ毘沙門天の藥なれど、大祕密につき其の製法は『**最行口傳書**』に於てのみ之を傳授せん。）

『讀誦佛母大孔雀明王經前啓請法

南謨母馱野　南謨達磨野　南謨僧伽野　南謨七佛正徧知者　南謨慈氏菩薩等一切菩薩摩訶薩南無獨覺聲聞四果四向我皆敬禮如是等聖衆我今讀誦摩訶摩瑜利佛母明王經我所求請願皆如意所有一切諸天靈祇或居地上或處虛空或住於水異類鬼神所謂諸天及龍阿蘇羅摩嚕多蘖嚕拏彥達嚩緊那羅摩護囉誐藥叉囉刹娑畢嚩多比舍遮部多矩畔拏布單那羯吒布單那塞建那嗢麽那車耶阿鉢娑麽囉塢娑怛囉迦及餘所有一切鬼神及諸蠱魅人非人等諸惡毒害一切不祥一切惡病一切鬼神一切使者一切怨敵一切恐怖一切諸毒及諸呪術一切厭禱伺斷

佗命起毒害心行不饒益者皆來聽我讀誦佛母大孔雀明王經捨除暴惡咸起慈心於佛法僧生清淨信我今施設香華飲食願生歡喜咸聽我言

怛儞也佗迦哩迦囉哩矩畔膩餉棄嶺迦麼攞乞史賀哩底賀哩計施室哩麼底賀哩冰誐黎攬迷鉢囉攬迷迦攞播勢迦攞戌娜哩焰摩努底麼賀囉乞灑某部多薩囉薩鉢囉嶺底砌舍補澀嚩度嚩嶼淡末隣左娜瀉弭囉乞灑佗麼麼颯跋哩嚩覽薩嚩婆喻鉢捺嚩吠毗藥餌嚩覩韈囉灑捨躭鉢設都捨囉喃捨單悉鈿覩滿怛囉鉢娜娑嚩賀

諸如是等一切天神咸來集會受此香華飲食發歡喜心擁護於我某甲　幷諸眷屬我等眷屬所有厄難一切憂惱一切疾病一切饑饉獄囚繫縛恐怖之魔悉皆解脫壽命百歲願見百秋明力成就所求願滿。

佛母大孔雀明王經卷上

如是我聞一時薄伽梵在室羅伐城逝多林給孤獨園時有一苾芻名曰莎底出家未久新受近圓學毗奈耶敎爲衆破薪營澡浴事有大黑蛇從朽木孔出螫彼苾芻右足拇指毒氣徧身悶絕于地口中吐沫兩目翻上　爾時具壽阿難陀見彼苾芻爲毒所中極受苦痛疾住佛所禮雙足已而白佛言世尊莎底苾芻爲毒所中受大苦惱具如上說如來大悲云何救護作是語已　爾時佛告阿難陀我有摩訶摩瑜利佛母明王大陀羅尼有大威力能滅一切諸毒怖畏災惱攝受覆育一切有情獲得安樂汝持我此佛母明王陀羅尼爲涉底苾芻而作救護爲結地界結方隅界令得安隱所有苦惱皆得消除彼等或爲天龍所持阿蘇羅所持摩囉多所持誐嚕拏所持彥達嚩所持緊那囉所持摩護囉誐所持藥叉所持囉刹娑所持畢嚩多所持毗舍遮所魅步多所魅矩畔拏所魅布單那所魅羯吒布單那所魅塞建那所魅嗢麼那所魅車耶所魅阿鉢

娑麽囉所魅塢娑跢囉迦所魅爲如是等所執所魅之時佛母明王悉能加護令無憂怖壽命百年或被他人厭禱呪術蠱魅惡法之類所謂訖哩底迦羯摩拏迦具囉那枳囉拏吠哆拏質者飲他血髓變人驅役呼召鬼神造諸惡業惡食惡吐惡影惡視惡跳惡驀或造厭書或惡冐逆作如是惡事欲相惱亂者此佛母明王擁護彼人幷諸眷屬如是諸惡不能爲害又復瘧病一日二日三日四日乃至七日半月一月或復頻日或復須臾一切瘧病四百四病或常熱病偏邪瘻病鬼神壯熱風黃痰癊或三集病飲食不消頭痛半痛眼耳鼻痛唇口頰痛牙齒舌痛及咽喉痛胷脅背痛心痛肚痛腰痛腹痛髀痛膝痛或四肢痛隱密處痛偏身疼痛如是過患悉皆除滅願護於我某甲幷諸眷屬我結地界結方隅界讀誦此經悉令安隱卽說伽佗曰

令我夜安　晝日亦安　一切時中　諸佛護念

卽說陀羅尼曰　怛儞也佗伊膩尾膩枳膩呬膩弭膩頞膩畯嬭伽嬭努誐嬭賀哩抳嚩虞膩膀蘇比舍止頞阿嚧賀抳汙嚧賷嚟帝嚟底哩底哩謎嚟謎嚟底謎底謎

努謎努謎伊置弭置尾瑟置睇左跛噓尾麽嚟尾麽嚟護嚕護嚕阿濕嚩目棄迦哩麽賀迦哩鉢囉枳囉拏計施矩嚕矩嚕嚩普嚕句嚕句嚕護嚕護嚕嚩譜嚕度娑努嚩怒麽怒麽弩嚩弩嚩遇攞夜吠攞夜比輸比輸呬哩呬哩弭哩弭哩底哩底哩鼻哩鼻哩祖嚕祖嚕母護母護母護母護母嚕母嚕母嚕母嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護護護護護護護嚩嚩嚩嚩嚩嚩嚩嚩嚩惹攞惹攞惹攞惹攞惹攞惹攞惹攞娜麽娜麽頞多跛多跛頞入嚩攞入嚩攞頞鉢左跛左頞嬾努龒惹頞蟻嚩灑抳颯普咤頞跢跛頞播左頞賁哩抳馱哩抳迦哩抳劒跛頞沫那頞曼膩底計麽迦哩設迦哩羯迦哩爍迦哩餉迦哩入嚩攞頞努麽努嚩哩努銘努酩遇攞野鉢哩吠攞野蟻囉灑覩爾嚩三滿帝曩伊哩枳梟娑嚩賀　阿難陀有諸龍王名字當起慈心稱念其名攝除諸毒所謂

持國龍王我慈念　愛囉嚩拏常起慈　尾囉博叉亦起慈　黑驕答麽我慈念

麽抳龍王我慈愍　婆蘇枳龍常起慈　杖足龍王亦起慈　滿賢龍王我慈念

無熱惱池嚩嚕拏　曼闍洛迦德叉迦　難陀鄔波難陀龍　我常於彼興慈意
無邊龍王我慈念　嚩蘇目佉亦起慈　無能勝龍常起慈　嚩嚩龍王我慈念
大麽娜斯我慈念　小麽娜斯亦起慈　阿鉢嚩羅迦洛迦　有財沙彌龍王等
捺地穆佉及麽抳　白蓮華龍及方主　羯句吒迦及鑑足　毛毯馬勝等皆慈
娑雞得迦供鼻羅　針毛臆行龍王等　哩使迦龍我慈念　滿耳車面亦常慈
句洛迦龍我慈念　婆雌補多蘇難陀　愛囉鉢多大龍王　濫迦洛迦我慈愍
非人龍王我慈念　上人龍王亦復然　蔑蘖囉龍常起慈　母呰隣那我慈念
或有龍王行地上　或有龍王常居空　或有恒依妙高山　或在水中作依止
一首龍王我慈念　及以二頭亦復然　如是乃至有多頭　此等龍王我慈念
或復無足龍王類　二足四足等龍王　或復多足諸龍王　各起慈心相護念
此等龍王具威德　色力豐美有名聞　天與脩羅共戰時　有大神通皆勇猛
勿使無足欺輕我　二足四足勿相侵　及與多足諸龍王　常於我身無觸惱

諸龍及神我慈念　或在地上或居空　常令一切諸衆生　各起慈心相護念
復願一切含生類　及以靈祇諸大神　常見一切善徵祥　勿覩違情罪惡事
我常發大慈悲念　令彼滅除諸惡毒　饒益攝受離災厄　隨在時方常擁護
曩謨窣覩沒馱野曩謨窣覩沒馱曳曩謨窣覩目訖多野曩謨窣覩目訖多曳曩
謨窣覩扇多野曩謨窣覩扇多曳曩謨尾目訖跢曩尾目訖跢曳
諸有淨行者　能伏諸惡業　敬禮如是等　於我常衛護　若逢諸恐怖
一切惱亂時　幷及災害時　疾病變怪等　及被毒所中　不利益之時
護我幷眷屬　無病壽百歲

佛告阿難陀往昔之時雪山南面有金曜孔雀王於彼而住每於晨朝常讀誦佛母大
孔雀明王陀羅尼晝必安隱暮時讀誦夜必安隱卽說陀羅尼曰
曩謨沒馱野曩謨達磨野曩謨僧伽野怛儞也佗護護護護野誐嚩嚩努麽嚩嚩護
野護野尾惹野度蘇度蘇奚嚕奚嚕曀攞謎攞底哩謎攞伊哩蜜怛嚩底里蜜怛嚩伊

哩底哩蜜怛嚩努謎努謎蘇努謎努謎妬蘇帝遇攞吠攞左跛攞尾麼攞伊上置哩毗
置哩伊哩置哩尾置哩曩謨窣覩沒馱南唧哩枳枲遇努嗢迦曩謨囉曷耽護囉娜囉
嚩灑覩禍嚩三滿帝曩捺捨蘇爾舍蘇曩謨母馱南娑嚩賀
阿難陀彼金曜孔雀王忽於一時忘誦此佛母大孔雀明王陀羅尼遂與衆多孔雀娵
女從林至林從山至山而爲遊戲貪欲愛著放逸昏迷入山穴中捕獵怨家伺求其便
遂以烏羂縛孔雀王被縛之時憶本正念卽誦如前佛母大孔雀明王陀羅尼於所繫
縛自然解脫眷屬安隱至本住處復說此明王陀羅尼曰
曩謨母馱野曩謨達磨野曩謨僧伽野曩謨蘇嚩拏嚩婆薩寫麼度囉囉枳孃曩謨
摩賀麼度哩曳尾爾也囉枳惹怛爾也佗悉第蘇悉第謨左嚴謨刹捉目訖帝尾目訖
帝阿麼黎尾麼黎嚩麼黎曹誐黎嗢嬾孃蘖陛囉怛曩護陛跛捺嚩蘇跋捺嚩三滿多
跋捺嚩薩嚩囉佗娑馱嚩跛囉沫佗娑馱嚩薩嚩囉佗鉢囉嚩馱嚩薩嚩曹誐囉娑馱
嚩麼曩枲麼曩枲摩賀麼曩枲曷步帝頞底也訥部帝皎卒帝阿惹嚩尾惹嚩尾麼黎

阿蜜哩帝阿麼黎阿麼囉捉沒囉憾謎沒囉憾麼娑嚩嚩布囉停布囉拏麼努囉剃蜜
哩多散吟嚩嚩室哩跋捺嚩戰捺嚩戰捺囉鉢囉陛素哩曳素哩也建帝咪多婆曳蘇
韈嚩沒囉憾麼具麗沒囉憾麼乳瑟醉薩嚩怛囉鉢囉底賀帝娑嚩賀那莫薩嚩沒馱
喃娑嚩娑底麼麼曩誐寫颯跛哩嚩囉囉乞產矩挽覩吟嚩覩韈囉灑設單鉢扇覩設
囉難設單護呰奚呰具呰祈呰娑嚩賀
佛告阿難陀往昔金曜孔雀王者豈異人乎卽我身是我今復說佛母大孔雀明王心
陀羅尼曰
怛爾也佗伊底蜜底底哩蜜底底哩弭里蜜底底黎比弭哩弭哩底弭底哩弭哩蘇嚩
嚩嚩嚩蘇嚩左唧哩枳枲野牝那謎膩曩謨沒馱南唧羯枲鉢囉多慕黎壹底賀嚧嚩
嗢多慕黎膽嚩暗嚩俱置矩曩置底囉君左曩置阿拏嚩多野韈囉灑覩禰務曩嚩麼
娑娜捨麼細底壹底弭哩枳哩弭哩計攞弭哩計覩母黎努努迷蘇努謎嬭娜哩謎散
覩韈醉母娑韈醉母薩嚩母薩嚩曀拏嚩窣多囉計捺迦攞曩迦哩謎佉囉麼囉企黎

壹底薩惹黎覩吠覩頓吠頞曩齖鉢囉曩齖頞拏捺齖韈囉灑覩禰務曩謨娜計曩散
怛齖妬三滿帝曩曩囉野抳播囉野抳賀哩多哩君多哩伊哩蜜窣底吉底哩蜜窣底
伊哩謎悉鈿覩捺囉弭拏曼怛囉跛諾娑嚩賀
阿難陀此佛母大孔雀明王心陀羅尼若復有人欲入聚落應當憶念於曠野中亦應
憶念在道路中亦常憶念或在非道路中亦應憶念入王宮時憶念逢劫賊時憶念鬬
諍時憶念水火難時憶念怨敵會時憶念大衆中時憶念或蛇蝎等螫時憶念爲毒所
中時憶念及諸怖畏時憶念風黃痰癃時憶念或三集病時憶念或四百四病一一病
生時憶念若苦惱至時皆當憶念何以故若復有人應合死罪以罰物得脫應合被罰
以輕杖得脫應合輕杖被罵得脫應合被罵訶責得脫應合訶責戰悚得脫應合戰悚
自然解脫一切憂惱悉皆消散　阿難陀此佛母大孔雀明王眞言一切如來同共宣
說常當受持自稱已名請求加護願攝受我某甲並諸眷屬除諸怖畏刀杖枷鎖苦難之時願
皆解脫常逢利益不値災危壽命百歲得見百秋阿難陀若有人天魔梵沙門婆羅門

等讀誦受持此佛母大孔雀明王陀羅尼結其地界結方隈界請求加護一心受持者
我不見有天龍鬼神能爲惱害所謂天及天婦天男天女及天父母幷諸朋屬如是等
類無能爲害若龍龍婦龍男龍女及龍父母幷諸朋屬亦不能爲害若阿蘇羅及婦男
女父母朋屬等不能爲害若麼嚕多及婦男女父母朋屬等亦不能爲害若誐嚕拏及
婦男女父母朋屬等亦不能爲害若彥達嚩及婦男女父母朋屬等亦不能爲害若緊
那囉及婦男女父母朋屬等不能爲害若摩護囉誐及婦男女父母朋屬等亦不能爲
害若藥叉及婦男女父母朋屬等不能爲害若囉刹娑及婦男女父母朋屬等亦不能
爲害若畢嚩多及婦男女父母朋屬等不能爲害若比舍遮及婦男女父母朋屬等亦
不能爲害若步多及婦男女父母朋屬等亦不能爲害若矩畔拏及婦男女父母朋屬
等亦不能爲害若布單那及婦男女父母朋屬等不能爲害若羯吒布單那及婦男女
父母朋屬等亦不能爲害若塞建那及婦男女父母朋屬等不能爲害若嗢麼那及婦
男女父母朋屬等亦不能爲害若車耶及婦男女父母朋屬等不能爲害若阿鉢娑麼

囉及婦男女父母不屬等亦不能爲害若塢娑跢羅迦及婦男女父母屬朋等皆不能
爲害　如是等天龍藥叉及諸鬼神所有親眷朋屬等發起惡心伺求人便作諸障難
者此等天龍鬼神雖起惡心不能惱亂持此經者何以故由常受持佛母明王陀羅尼
故此等天龍鬼神爲惱害者若還本處彼類不容入衆若有違此佛母明王眞言越界
法者頭破作七分猶如蘭香稍
復次阿難陀又有明王陀羅尼汝當受持卽說明曰　　怛儞也佗伊哩弭哩緊耨
契目訖帝蘇目訖帝阿拏曩拏蘇曩拏韈囉灑覩禰舞跛囉摩拏韈跢焰阿囉播囉過
怒吲迦伊哩弭哩牝爾哩迦嗢努迦嗢嫩努迦伊哩弭哩底哩弭哩三滿怛多訖嚧怛
嚩護嚕護嚕吲哩吲哩弭哩弭哩枳哩枳哩室哩灑拏沒哩衫祇嚕祇嚕左攞左攞唧
哩唧哩祖嚕祖嚕尾置尾置式棄式棄壹置尾置式棄式棄護祖護祖護祖護祖護
護祖護祖護祖護祖賀囉賀囉賀囉賀囉捉染陛鉢囉咎陛薩嚩訥瑟吒麼努瑟鴿咎
陛弭麼麼颯跛哩嚩囉寫囉乞創屈挽覩迦嚕弭吟嚩都韈囉灑設單鉢捨都設囉脯

設單虞底孕跛哩怛囉喃跛哩仡囉憾跛哩播攞脯扇底孕娑嚩窣底也野南薩琴跛
哩賀嚧尾灑努灑喃尾灑曩捨薩泉麼曼鄧駄囉捉曼蕩左迦嚕弭唧怛嚩唧怛囉麼
嚩賀黎賀攞麼黎頗黎頗攞麼黎鬗嚕鬗嚕佉囉嚩嚕捉味嚩曀曳阿嚕麼嚕滅除一
切毒及起惡心者根毒牙齒毒飲食中諸毒願佛以威光滅除毒害苦素嚕素嚕計嚩
囉嚩囉計韈囉計尾哩吲哩一切毒消除願勿相侵害七佛諸世尊正徧知覺者及以
聲聞衆威光滅諸毒曀攞謎攞壹哩謎攞底哩底哩謎攞底賀努賀尾麼努麼曀蘇努
麼遜嚩頓嚩三麼頓嚩阿嬭曩嬭矩攞矩嚩曩嬭嚩曩灑覩禰嚩伊哩枳枳三曼帝曩
曩嚩麼娑娜娑麼娑昧怛哩謎薩嚩怛吠數祇薩嬭祇娜哩捉計嚩摘計嚩吒迦慕隸
伊底攝嚩嚩覩吠覩吠畢哩孕迦嚩阿嚩齡跛哩嚩齡那舞那計曩嚩囉灑覩禰舞曩
謨娑誐嚩妬印捺囉過跛泉迦野壹置吒野過怒吲迦野勃陵誐哩迦野阿黎多黎君
多黎阿捨顎播捨顎播跛顎矩黎曩謨婆誐嚩跢喃悉鈿覩滿怛囉鉢娜娑囉賀
毗鉢尸如來　無憂樹下坐　尸棄佛世尊　依止奔陀利　毗舍浮如來

住在娑羅林　拘留孫如來　尸利娑樹下　羯諾迦大師　烏曇跋羅樹
迦攝波善逝　尼俱陀樹下　釋迦牟尼佛　聖種悟答摩　坐於菩提樹
證無上正覺　是等諸世尊　皆具大威德　諸天廣供養　咸生敬信心
一切諸鬼神　皆生歡喜念　令我常安隱　遠離於衰厄

七佛世尊所說明曰

怛儞也佗壹哩弭哩枳哩尾哩計哩嚩哩嚩哩嗢努囉蘇努謨禰慕薩囉護護迦囉劑迦囉
惹母嚩壹底捨嚩跢矩覩哩曩囉野捉跋捨嚩跋捨跋捨嚩劫比囉嚩空覩伊哩嚩悉
鈿覩捺囉弭拏滿怛囉跋娜娑嚩賀

復次阿難陀有大藥名是素訶世界主大梵天王天帝釋四大天王二十八大藥叉將
共所宣說若有受持如是大藥叉名者設有鬼神發起惡心欲相惱亂者頭破作七分
猶如蘭香梢即說藥叉名曰

怛儞也佗吉底慕嚩曀嚕慕嚩三滿多慕嚩阿嬭曩嬭矩薩曩嬭伊帝弭帝播嚕阿嚕

拏句麼嚕拏句伊哩枳哩尾哩迦努呬迦嚕鈍度麼牝娜吠拏

願二足吉祥　四足亦吉祥　行路中吉祥　迴還亦吉祥　願夜中吉祥
晝日亦吉祥　一切處吉祥　勿值諸罪惡　一切日皆善　一切宿皆賢
諸佛皆威德　羅漢皆斷漏　以新誠實言　願我常吉祥

阿難陀若讀誦此大明王經時作如是語此大孔雀明王佛所宣說願以神力常擁護
我饒益攝受爲作氣依寂靜吉祥無諸災患刀杖毒藥勿相侵損我今依法結其地界
結方隈界除諸憂惱壽命百歲願度百秋　復次阿難陀有大藥叉王及諸藥叉將住
大海邊或住妙高山及餘諸山或居曠野或住諸河川澤陂池屍林坎窟村巷四衢園
苑林樹或居餘處有大藥叉住阿拏挽多大王都處如是等衆咸願以此佛母大孔雀
明王陀羅尼擁護於我某甲幷諸眷屬壽命百年願見百秋陀羅尼曰怛儞也佗賀哩
賀哩捉賀哩捉左哩佐哩頸怛囉跋捉謨賀頸娑擔婆頸咎婆頸娑嚩演僕賀

復次阿難陀東方有大天王名曰持國是彥達囉主以無量百千彥達嚩而爲眷屬守

護東方彼有子孫兄弟軍將大臣雜使如是等衆彼亦以此佛母大孔雀明王陀羅尼
擁護於我幷諸眷屬爲除憂惱壽命百歲願見百秋陀羅尼曰怛儞也佗麤麤嚕麤
嚕麤麤嚕麤麤麤嚕麤麤麤嚕麤麤嚕麤麤嚕麤麤嚕謎娑嚩賀復次阿難陀南方有大天王名曰
增長是矩畔拏主以無量百千矩畔拏而爲眷屬守護南方彼有子孫兄弟軍將大臣
雜使如是等衆彼亦以此佛母大孔雀明王陀羅尼擁護於我幷諸眷屬爲除憂惱壽
命百歲願見百秋陀羅尼曰怛儞也佗吠嚕計吠嚕計阿蜜怛囉伽多顎嚩嚕拏嚩底
吠努麽里顎吠哩顎補怛哩計祖祖唧祖娑嚩賀
復次阿難陀此西方有大天王名曰廣目是大龍主以無量百千諸龍而爲眷屬守護
西方彼有子孫兄弟軍將大臣雜使如是等衆彼亦以此佛母大孔雀明王陀羅尼擁
護於我幷諸眷屬爲除憂惱壽命百歲願見百秋陀羅尼曰怛儞也佗吠努哩吠努哩
麽置帝麽置帝句胝句胝尾儞度麽底護護護護護護護護護護護護護護護護護護護
護嚕護嚕護嚕祖祖祖祖祖祖祖祖左左左左左左左左左左左左嘘娑嚩賀

復次阿難陀北方有大天王名曰多聞是藥叉主以無量百千藥叉而爲眷屬守護北
方彼有子孫兄弟軍將大臣雜使如是等衆彼亦以此佛母大孔雀明王陀羅尼擁護
於我幷諸眷屬爲除憂惱壽命百歲願見百秋陀羅尼曰怛儞也佗素哩素哩施哩施
哩麽底賀哩賀哩麽底迦哩哩賀哩哩閉嚕閉嚕冰誐黎祖魯祖魯鈍廣麽底賀單尾
衫鈍度麽底娑嚩賀
東方名持國南方號增長西方名惡目北方多聞天此四大天王護世有名稱四方常
擁護大軍具威德外怨悉降伏他敵不能侵神力有光明常無諸恐怖天與阿蘇羅或
時共鬬戰此等亦相助令天勝安隱如是等大衆亦以此明王護我幷眷屬無病壽百
歲陀羅尼曰
怛儞也佗醯隸謎隸底哩謎隸嚩勢努吠努努吠韈囉灑覩禰嚩三滿帝曩嗢哩弭哩
頓吠覩頓吠頞醯嚩醯跛囉麽努嚩醯韈囉灑覩禰務誐嚕彦跢野頓嬭覩頓嬭鏃計
穆計伊哩膩弭哩膩嗢哩嗢黎護魯護黎嗢哩弭哩覩黎多嚕哩娑嚩賀

佛母大孔雀明王經卷上。

佛母大孔雀明王經卷中

佛告阿難陀汝當稱念大藥叉王及諸大藥叉將名字所謂

矩吠囉長子　名曰珊逝耶　常乘御於人　住弭癡羅國　以天誠實威

衆皆從乞願

彼亦以此佛母大孔雀明王眞言擁護我幷諸眷屬爲除憂惱壽命百歲願見百秋卽

說眞言曰

怛儞也佗嚩黎嚩勒迦嚩摩蹬倪戰拏哩補嚕灑抳尾唧哩顎遇哩彥馱哩摩蹬倪戰

拏哩麼哩顎咽哩咽哩阿蘖底蘖底彥馱哩句瑟恥迦嚩哩尾賀顎咽哩劒謎娑嚩賀

羯句忖那神　波吒黎子處　阿跋羅爾多　住窣吐奴邑　賢善大藥叉

住於世羅城　摩那婆大神　常居於北界　大聖金剛手　住居王舍城

常在鷲峯山　以爲依止處　大神金翅鳥　毗富囉山住　質怛囉笈多

質底目溪住　薄俱羅藥叉　住於王舍城　營從幷眷屬　有大威神力

大小黑藥叉　勃比羅城住　是釋族牟尼　大師所生處　斑足大藥叉

吠囉耶城住　摩醯首藥叉　止羅多國住　勿賀娑鉢底　住於舍衛城

娑蘖囉藥叉　娑雞多處住　金剛杖藥叉　毗舍離國住　訶里冰蘖囉

力士城中住　大黑藥叉王　婆羅拏新國　藥叉名善現　住於占波城

吠史怒藥叉　住在墮羅國　馱羅抳藥叉　住在護門國　可畏形藥叉

住於銅色國　末達那藥叉　烏洛迦城住　阿吒薄俱將　曠野林中住

劫比羅藥叉　住於多稻城　護世大藥叉　嗢逝尼國住　韈蘇步底神

阿羅挽底國　水天藥叉神　婆盧羯泚國　歡喜大藥叉　住於歡喜城

持鬘藥叉神　住在勝水國　阿難陀藥叉　末羅鉢吒國　白牙齒藥叉

住於勝妙城　堅固名藥叉　末娑底國住　大山藥叉王　住在山城處

婆颯婆藥叉　住居吠爾勢　羯底雞藥叉　住嚧呬多國　此藥叉童子
名聞於大城　百臂大藥叉　住在頻陀山　廣車藥叉神　羯陵伽國住
能征戰藥叉　窣鹿近那國　雄猛大藥叉　遏祖那林住　遏拏波藥叉
末達那國住　山峯藥叉神　住於摩臘婆　嚕捺囉藥叉　嚧呬多馬邑
一切食藥叉　住於奢羯羅　波唎得迦神　少智洛雞住　商主財自在
住在難勝國　峰牙及世賢　跋娑底耶國　尸婆藥叉王　住食尸婆城
寂靜賢藥叉　住在可毘國　因陀囉藥叉　因陀囉國住　華幢藥叉主
住於寂靜城　那嚕迦藥叉　那嚕迦城住　劫比囉藥叉　常在邑城住
寶賢及滿賢　住梵摩伐底　能摧他藥叉　住健陀囉國　能壞大藥叉
得叉尸羅住　驢皮藥叉神　在於吐山住　三密藥叉主　阿努波河側
發光明藥叉　嚧鹿迦城住　喜長藥叉神　呬隅摧國住　婆以盧藥叉
住居婆以地　愛鬪諍藥叉　住在濫波國　蘖踏婆藥叉　末土羅城住

餅腹藥叉王　住在楞伽城　日光明藥叉　住在蘇那國　岧頭山藥叉
住憍薩羅國　勝及大勝神　住在半尼國　圓滿大藥叉　末羅耶國住
緊那囉藥叉　計羅多國住　護雲藥叉王　住在伴拏國　謇拏迦藥叉
住在安立國　僧迦離藥叉　必登蘖哩住　引樂藥叉神　怛楞蘖底住
孫陀囉藥叉　那新雞國住　阿僧伽藥叉　婆盧羯車住　難爾大藥叉
及子難爾迦　此二藥叉神　羯訶吒迦住　垂腹大藥叉　羯陵伽國住
大臂藥叉王　憍薩羅國住　娑悉底迦神　娑底羯吒國　娑洛伽藥叉
常在林中住　賢耳大藥叉　怛胝肩國住　勝財藥叉神　住居陸滿國
氣力大藥叉　毗囉莫迦住　喜見藥叉神　住阿般底國　尸謇馱藥叉
住在牛摧國　愛合掌藥叉　住居吠爾勢　陛瑟致得迦　住在蓋形國
調摩竭藥叉　住在三層國　廣目藥叉神　住居一腋國　安拏婆藥叉
優曇跋囉國　無功用藥叉　憍閃彌國住　徽嚧者那神　寂靜意城住

遮羅底迦神　住居蛇蓋國　赤黃色藥叉　劒畢離國住　薄俱囉藥叉
嗢逝訶那住　布喇拏藥叉　住曼拏比國　羅迦謎沙神　牢遮離城住
難摧大藥叉　蘖度娑國住　堅頰藥叉神　住在水天國　脯闍逝野神
住在鬪戰國　怛洛迦藥叉　及俱怛洛迦　二大藥叉王　住在俱盧土
大烏嚧佉羅　及與迷佉羅　此二藥叉女　威德具名稱　并與諸眷屬
亦住俱盧土　徵帝播底神　及以義成就　此二藥叉王　阿曳底林住
往成就藥叉　窣鹿近那住　窣吐羅藥叉　住窣吐羅國　虎力師子力
并大師子力　俱胝年大將　佗勝宮中住　華齒藥叉神　住在占波城
摩竭陀藥叉　住在山行處　鉢跋多藥叉　瞿瑜伽處住　蘇囉那藥叉
那蘖羅國住　勇臂大藥叉　娑雞多邑住　能引樂藥叉　住在哥乾底
無勞倦藥叉　住憍閃彌國　賢善藥叉神　住於賢善國　步多面藥叉
波吒離子住　無憂大藥叉　住在迦遮國　羯徵羯吒神　菴娑瑟佗住

成就義藥叉　住在天腋國　曼那迦藥叉　住在難勝國　解髮藥叉神
住居勝水國　寶林藥叉神　住先陀婆國　常謹護藥叉　劫毗羅國住
羯吒徵羯吒　迦毗羅衞國　慳悋藥叉神　住乾陀羅國　墮羅藥叉神
膩攞耶肩住　處中藥叉神　賢善名稱住　吠瑠璃藥叉　堅實城中住
染薄迦藥叉　住居沙磧地　舍多大藥叉　及以毗羯吒　此二藥叉神
物那擿迦住　毗摩尼迦神　提婆設摩住　曼陀羅藥叉　捺羅那國住
作光藥叉神　羯濕彌羅國　占博迦藥叉　在羯住城住　牟支迦藥叉
羯濕彌羅際　具足五百子　有大軍大力　長子名肩目　住在支那國
諸餘兄弟等　憍尸迦國住　牙足藥叉神　羯陵伽國住　曼荼羅藥叉
住曼荼羅處　楞伽自在神　住於迦畢試　摩利支藥叉　羅摩脚蹉住
達磨波羅神　住在於疎勒　大肩藥叉神　薄佉羅國住　毗沙門王子
具衆德威光　住在覩火羅　有大軍大力　一俱胝藥叉　而爲其眷屬

娑多山藥叉　及以雪山神　此二大藥叉　辛都河側住　執三戟藥叉
住在三層殿　能摧大藥叉　羯陵伽國住　半遮羅𧇊拏　達彌拏國住
財自在藥叉　住在師子國　鸚鵡口藥叉　住於曠野處　兢羯娑藥叉
常依地下住　有光明藥叉　白蓮華國住　設弭羅藥叉　於大城中住
能破佗藥叉　捺羅泥國住　冰蘖羅藥叉　菴末離國住　末末拏藥叉
末末拏藏國　摩怛哩藥叉　住於施欲國　極覺藥叉神　布底嚩吒國
那吒矩韈囉　住於迦畢試　鉢囉設囉神　鉢羅多國住　商羯囉藥叉
住在爍迦處　毗摩質多羅　莫里迦城住　冰羯囉藥叉　羯得迦國住
滿面藥叉王　奔拏韈達那　羯囉羅藥叉　住在烏長國　甕腹藥叉神
憍薩羅國鉢　摩竭幢大神　住居沙磧處　質怛囉細那　僕迦那國住
囉嚩拏藥叉　一摩陀國住　赤黃色藥叉　羅尸那國住　欒見藥叉神
鉢尼耶國住　金毗囉藥叉　住於王舍城　常居毗富羅　有大軍大力

萬俱胝藥叉　而爲其眷屬　瞿波羅藥叉　住在蛇蓋國　菝洛迦藥叉
頞洛迦城住　難提藥叉神　住在難提國　末里大天神　住在村巷處
毗沙門居住　佛下寶堦處　渴拏挽多城　僾衆神圍繞　如是等藥叉
有大軍大力　降伏他怨敵　無有能勝者　名稱滿諸方　具足大威德
天與阿脩羅　戰時相助力
此等福德諸神大藥叉將徧贍部洲護持佛法咸起慈心彼亦以此佛母大孔雀明王眞言常擁護我攝受饒益令得安隱所有厄難皆悉消除或爲刀杖損傷或被毒中王賊水火之所逼惱或爲天龍藥叉所持及諸鬼等乃至畢隸索迦行惡病者皆遠離於我并諸眷屬我結地界結方隅界讀誦此經除諸憂惱壽命百歲願見百秋卽說眞言曰怛儞也佗阿迦𪘁尾迦𪘁訶哩抳賀哩抳馱囉抳馱囉抳護計護計母計母計我所有病苦賀曩賀曩賀曩賀曩賀曩賀曩賀曩賀曩我所有恐怖娜賀娜賀娜賀娜賀娜賀娜賀娜賀娜賀娜賀娜賀我所有怨家跛左跛左跛左跛左跛左跛左跛

左跛左跛左跛左我所有不饒益事度度度度度度度度我有遭毒藥賀賀賀
賀賀賀賀賀賀我所有他人厭禰爾置爾置爾置爾置爾置爾置爾置爾置
我所有罪業願皆消滅祖嚕祖嚕祖嚕祖嚕祖嚕祖嚕祖嚕祖嚕呬哩呬哩
呬哩呬哩呬哩呬哩呬哩呬哩弭哩弭哩弭哩弭哩弭哩弭哩弭哩弭哩弭
哩弭哩普嚕普嚕普嚕普嚕普嚕普嚕普嚕普嚕唧置唧置唧置唧置
唧置唧置唧置唧置呬計弭計唧計尾計室哩跛捺嚇曹蘗嚟滿多跛捺嚇薩嚇
囉佗娑馱覩阿麼嚇尾麼嚇贊捺囉鉢囉陛素哩野建帝努吠怒努吠畢哩孕迦嚇娑
嚩賀

惟願諸神等常擁護我幷諸眷屬壽命百歲願見百秋

佛告阿難陀復有二十八藥叉大將名號汝當稱念此等藥叉大將能於十方世界覆護一切衆生爲除衰患厄難之事有四藥叉大將住於東方擁護東方所有衆生令離憂苦其名曰

儞伽蘇寧怛咯布囉拏迦刧比囉

彼亦以此佛母大孔雀明王擁護我幷諸眷屬壽命百年

阿難陀有四藥叉大將住於南方擁護南方所有衆生令離憂苦其名曰

僧賀塢跛僧賀餉企囉難那

彼亦以此佛母大孔雀明王擁護我幷諸眷屬壽命百年

阿難陀有四藥叉大將住於西方擁護西方所有衆生令離憂苦其名曰

賀囉賀哩計爍鉢鉢囉僕刧比囉

彼亦以此佛母仕孔雀明王擁護我幷諸眷屬壽命百年

阿難陀有四藥叉大將住於北方擁護北方所有衆生令離憂苦其名曰

馱囉拏馱囉難努嘔儞庾業播嚕尾瑟努

彼亦以此佛母大孔雀明王擁護我幷諸眷屬壽命百年

阿難陀有四藥叉大將各住四維擁護四維所有衆生令離憂苦其名曰

半止脚半者羅嚧拏娑跢儗哩彥麼嚩多

彼亦以此佛母大孔雀明王擁護我幷諸眷屬壽命百年

阿難陀有四藥叉大將常居於地擁護所有地居衆生令離憂苦其名曰

步莫蘇步莫迦囉塢跛迦囉

彼亦以此佛母大孔雀明王擁護我幷諸眷屬壽命百年

阿難陀有四藥叉大將常在空居擁護所有空居衆生令離憂苦其名曰

素哩野素謨阿儗嚩嚩度

彼亦以此佛母大孔雀明王擁護我幷諸眷屬壽命百年

復次阿難陀汝當稱念多聞天王兄弟軍將名號此等常護一切有情爲除災禍厄難

憂苦遊行世間作大利益其名曰

印捺囉素摩嚩嚕拏鉢囉惹跛底婆囉納嚩惹伊舍那室戰娜諸迦莫室嚩瑟姹矩嚩

建姹嚩建姹脚嚩膩麼抳麼抳者略鉢囉拏那塢跛半止脚娑跢儗哩彥麼嚩多布囉

拏佉儞囉句尾諸遇跛囉藥叉阿吒嚩句曩囉邏闍吟捺囉乞灑婆半者囉嚧拏蘇母

契儞伽藥叉薩跛哩惹曩唧怛囉細曩濕嚩彥達嚩底哩頗哩左怛哩建吒迦儞伽爍

底室左麼多哩

此等藥叉是大軍主統領諸神有大威力皆具光明形色圓滿名稱周徧是多聞天王

法兄弟多聞天王常勑此等藥叉兄弟若諸鬼神侵擾彼人者汝等爲作擁護勿使惱

亂令得安樂諸藥叉聞已依教奉行此等藥叉大將亦以此佛母大孔雀明王守護於

我幷諸眷屬壽命百年若有鬪諍苦惱之事現我前時願藥叉大將常衛護我幷諸眷

屬令離憂苦或爲天龍所持阿蘇囉所持麼嚕多所持誐嚕拏所持彥達嚩所持緊那

羅所持摩護囉誐所持藥叉所持羅刹娑所持畢嚩多所魅比舍遮所魅步多所魅矩

伴拏所魅布單那所魅羯吒布單那所魅塞建那所魅嗢麼那所魅車耶所魅阿鉢娑

麼羅所魅塢娑跢囉迦所魅諸刹怛囉所魅隸跛所魅爲如是等鬼神所持所魅皆擁

護我幷諸眷屬令離憂惱壽命百年

復有諸鬼食精氣者食胎者食血者食肉者食脂膏者食髓者食生者食命者食祭祠者食氣者食香者食鬘者食華者食果者食苗稼者食火祠者食膿者食大便者食小便者食涕唾者食涎者食洟者食殘食者食吐者食不淨物者食漏水者如是鬼魅所惱亂時願佛母明王擁護於我幷諸眷屬令離憂苦壽命百年願見百秋常受安樂若復有人造諸蠱魅厭禱呪術作諸惡法所謂訖嘍底迦羯麼拏迦具嘍那枳囉拏吠跢拏賀囉娜多嗢度跢多飲他血髓變人驅役呼召鬼神造諸惡業惡食惡吐惡影惡視或造厭書或惡跳惡鵞或惡冒逆作惡事時皆擁護我幷諸眷屬令離憂苦又有諸怖王怖賊怖水火等怖或他兵怖惡友刼殺怨敵等怖遭饑饉怖天壽死怖地震動怖諸惡獸怖如是等怖皆護於我幷諸眷屬

又復諸病疥癩瘡癬痔漏癰疽身皮黑澀飲食不消頭痛半痛眼耳鼻痛脣口頰痛牙齒舌痛及咽喉痛胃脅背痛心痛腰痛肚痛腹痛脞痛膝痛或四肢痛隱密處痛瘦病乾消徧身疼痛如是等痛悉皆除滅又諸瘧病一日二日三日四日乃至七日半月一

月或復頻日或復須臾或常熱病偏斜瘻病鬼神壯熱風黃痰癃或三集病四百四病一切瘧病如是等病悉令殄滅我今結其地界結方隅界讀誦此經悉令安隱娑嚩賀

復說伽佗曰

令我夜安　晝日亦安　一切時中　諸佛護念

復次阿難陀有十二大畢舍遮女亦應稱名如是鬼女於菩薩處胎時初生時及生巳此等鬼女常爲守護其名曰

覽麼尾覽麼鉢囉覽麼塢覽麼賀哩底賀哩計試賀哩冰蘖擺迦哩迦囉里劒母仡哩嚩迦枳迦攞戌娜哩

此等鬼女有大神力具大光明形色圓滿名稱周徧天阿蘇羅共戰之時現大威力彼亦以此佛母大孔雀明王眞言守護於我幷諸眷屬壽命百年眞言曰怛儞也佗賀嚩佉嚩齲隸麼黎弭黎母黎麼帝曼膩底計護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕賀

阿難陀復有八大女鬼亦應稱名是諸女鬼於菩薩處胎時初生時及生已此等女鬼
常爲守護其名曰
末那麽娜曩麽怒得迦吒塢跛末娜畢嚩底汙惹賀哩阿捨嶺仡囉薩寧制底
此等女鬼有大神力具大光明形色圓滿名稱周徧天阿蘇羅共戰之時現大威力彼
亦以此佛母大孔雀明王眞言守護於我幷諸眷屬壽命百年眞言曰
怛儞也佗賀嚩佉嚩齲嚩麽黎弭黎母黎麽帝曼膩底計護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護
嚕護嚕護嚕弭膩弭膩弭膩娑嚩娑底娑嚩娑底娑嚩賀
阿難陀復有七大女鬼亦應稱名此諸女鬼於菩薩處胎時初生時及生已此等女鬼
常爲守護其名曰
阿爽嚕儞迦囉乞史底迦質怛哩比舍止迦布囉拏跋捺囉迦阿儗嶺囉乞史底迦蜜
怛囉迦里迦乙㗊史囉乞史底迦制底
此等女鬼常瞰血肉惱觸於人有大神力具大光明形色圓滿名稱周徧天阿蘇羅共

戰之時現大威力彼亦以此佛母大孔雀明王眞言守護於我幷諸眷屬壽命百年眞
言曰
怛儞也佗賀嚩佉嚩齲嚩麽黎弭黎母黎麽帝曼膩底計護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護
嚕護嚕護嚕弭膩弭膩弭膩娑嚩娑底娑嚩娑底娑嚩賀
阿難陀復有五大女鬼當稱彼名此女鬼等於菩薩處胎時初生時及生已此等女鬼
常爲守護其名曰
君姹嶺君姹難娜尾史努攞劫比攞
此等女鬼有大神力具大光明形色圓滿名稱周徧天阿蘇羅共戰之時現大威力彼
亦以此佛母大孔雀明王眞言守護於我幷諸眷屬壽命百年眞言曰
怛儞也佗賀嚩佉嚩齲嚩麽黎弭黎母黎麽帝曼膩底計護嚕護嚕護嚕護嚕護嚕護
嚕護嚕護嚕弭膩弭膩弭膩娑嚩娑底娑嚩娑底娑嚩娑底娑嚩賀
阿難陀復有八大羅刹女於菩薩處胎時初生時及生已此等羅刹女常爲衛護其名